

平成30年度

なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書



平成31年4月

なごや生物多様性保全活動協議会

目 次

はじめに 1

なごや生物多様性保全活動協議会について 3

動物調査と保全対策部会 7

水辺の生きもの部会 12

生物情報モニタリングデータベース部会 18

オオキンケイギク対策部会 21

里山林・社寺林部会 23

広報・PR部会「なごや生きもの一斉調査〜アリ編〜」 27

広報・PR部会「なごや生物多様性サマースクール」 31

定例会 33

会員活動支援 34

南知多町長谷崎・聖崎の海の生物調査
（「あいちの海」グリーンマップ） 35

滝ノ水緑地におけるトンボの調査
（滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会） 36

荒池緑地 昆虫生息調査・水辺の生きもの調査
（荒池ふるさとクラブ） 37

小幡緑地 越夏昆虫 現地研修会
（名古屋自然観察会） 38

水源の森の樹幹解析ワークショップ
（NPO法人なごや東山の森づくりの会） 39

愛知県における外来魚問題
（名古屋自然観察会） 40

講演会
（名古屋昆虫同好会） 41

「中村公園ひょうたん池・太閤池」の環境保全事業
（公益社団法人名古屋中村法人会） 42

地域活動支援 43

牧野ヶ池移入種スイレン抜根調査
（牧野ヶ池緑地保全協議会） 44

細口池の生きもの復活作戦
（細口池生きもの復活クラブ） 45

道徳公園 黎明池の保全活動
（道徳学区連絡協議会「道徳池の会」） 46

助成金事業 47

親子で楽しむ昆虫調査会
（名古屋昆虫同好会） 48

親子自然体験サポーター養成講座
（地球ハグ倶楽部） 49

小幡緑地にあるダム下湿地の木道の敷設と
マメナシのポリネーター調査
（愛知守山自然の会） 50

東谷山湿地ポーリングの報告書作成事業
（東谷山湿地研究会） 51

藤前干潟 生きものまつり
（特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会） 52

地域の宝 国の天然記念物イタセンパラの保護 53
（木曽川高校 総合実務部）

東邦高校周辺におけるブルーギル捕獲と
透明標本制作
（東邦高校 科学研究部） 54

会員団体の活動紹介・報告

相生山緑地自然観察会 56

「あいちの海」グリーンマップ 56

愛知守山自然の会 57

雨池ホタルの会 57

荒池ふるさとクラブ 58

伊勢・三河湾流域ネットワーク 58

大高緑地湿地の会 59

尾張サンショウウオ研究会 59

かんでらmonzen亭
「笠寺ミツバチプロジェクト」 60

雑木林研究会 60

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会 61

地球ハグ倶楽部 61

中部蜘蛛懇談会 62

中志段味の自然を次世代に伝える会 62

なごや外来種を考える会 63

「なごや環境大学」実行委員会 63

名古屋昆虫同好会 64

名古屋産業大学 長谷川研究室 64

名古屋自然観察会 65

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち 65

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究
科附属生物多様性研究センター 66

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会 66

NPO法人 なごや東山の森づくりの会 67

NPO法人 日進野菜塾 67

日本カメ自然誌研究会 68

日本野鳥の会愛知県支部 68

花水緑の会 69

隼人池を美しくする会 69

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会 70

三河淡水生物ネットワーク 70

名東自然観察会 71

名東自然倶楽部 71

もりづくり会議 72

守山リス研究会 72

野生動物生態研究会 73

矢田・庄内川をきれいにする会 73

山崎川グリーンマップ 74

なごや生物多様性保全活動協議会が発足して8か年が過ぎ、前身となる「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を含めると、早10年の歳月が過ぎようとしている。

折しも来年2020年は COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が愛知・名古屋で開催されてから10年という節目の年であり、愛知ターゲット(国際社会が2010年以後10年間に達成を目指す20の具体的な目標)の検証の年である。さらに、2016年から2030年までの国際社会共通の目標である「持続可能な開発目標・SDGs(エスディジーズ)」達成のための新たな取り組みも始まっている。

愛知ターゲットの達成は、「多くの進展もあるが、まだまだ不十分」な状況とされる中、私たちの身近な生物多様性環境に関わる市民活動もねばり強く維持継続され、多くの成果を積み重ねてきている。この点において、なごや生物多様性保全活動協議会(以下、協議会)及びなごや生物多様性センター(以下、センター)の存在意義は大きなものがあったといえる。

しかしながら一方で、生物多様性保全に関わる市民活動の現場では高齢化が叫ばれ、後継者難にともなう活動の継続が危ぶまれる状況も垣間見られる。ここで私なりに、協議会の4年間の振り返り、反省とともに今後の期待と展望を記してみたい。

●生物多様性保全活動の持続性

例えば1990年代から全国的に始まった里山・雑木林の保全・再生活動や、ビオトープの保全・創出活動は一時の盛り上がりを経験したものの、現在ではその気運も下火となり、縮小の一途を辿っている。活動の担い手となる市民の高齢化とともに、行政による位置づけや企業の関心も薄れてきている。若い世代の関心層の発掘と動機付けが求められて久しいが、なかなか世代交代が進まない現状を見

るにつけ、今日の若者層の価値観やモチベーションに対応した有効な働きかけとして、情報ツールや企画プログラムの開発が求められているのではないかと感じさせられる。

●これからの協議会・センターの役割

これまでの調査・研究・保全活動の中で集積された標本や調査報告書等の記録や収蔵品は、市民共有の資産である。これらの資産を市民、とりわけ中・高・大学の若者層や30代40代の意識層、そして次代を担う子ども達に公開し還元する機能の充実が求められている。

具体的には「なごやの生物多様性巡回展・小学校生き物セミナー」の開催、「なごやの生物多様性ファンクラブ」の発足、「なごや生物多様性保全ボランティアリーダー養成講座及び認証制度」の開設など、これらの資産を有効活用した新たな取り組みが期待される。

そして、これらの機会を通して、従来の「市民ボランティア頼み一辺倒」の現状から、生物多様性の価値に気づく多様で新たな世代に発信し、訴えかけていかなければならない。

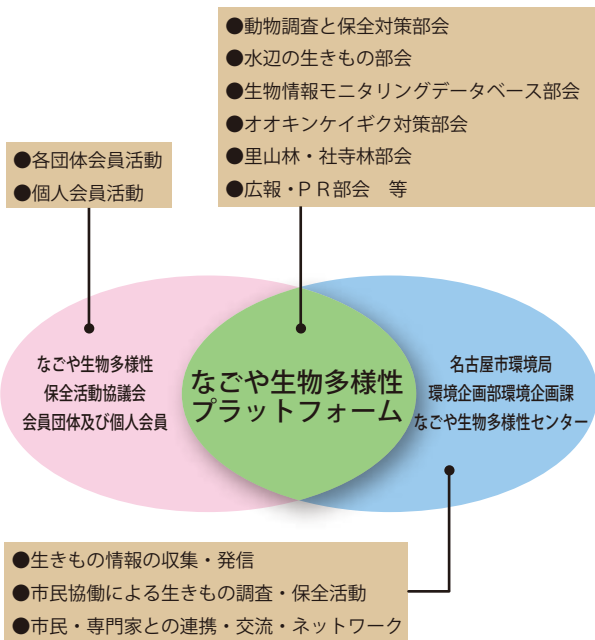
●市民・研究者・行政機関の関係について

市民と行政の協働については長く議論と試行の時代があったが、未だ「協働のプラットフォーム」の形成に至らない現状がある。こうしている間にも、行政内部や市民の間では「協働」も「生物多様性」も消えゆくワードとなりつつある。

「協働」が「共同幻想」と揶揄されるように、同床異夢の基礎的齟齬があったともいえ、市民側にも「協働」の下では、「全てのボランティア活動に対して行政は支援・協力するべきだ」との幻想があったのではないだろうか。これら双方の意識のずれによって、「協働」は、「市民の無いものねだり」と「行政に都合の良い、安上がりの市民利用」から、ついに脱却することができなかったのではないだろうか。これ

は27年に及ぶ自らのボランティア活動の総括であり反省でもある。

もとより協議会・センターは、それぞれの市民セクターや研究者の目的を達成してくれる機関ではなく、「共通・共有の目的」という限られたミッションを達成するための機関であることを再認識すべきである。市民・研究者・行政機関が共通・共有の目的を達成するための「生物多様性プラットフォーム」へと、この協議会・センターが進化することを願ってやまない。



なごや生物多様性プラットフォームのイメージ

●新たな「なごや生物多様性プラットフォーム」に求められる機能と担い手

なごやの生物多様性保全に関する調査・研究・記録・保全活動・学習・議論・普及・啓発・情報発信などの諸活動を展開する機関が「なごや生物多様性プラットフォーム」である。

このプラットフォームの形成には、これまでと異なる新たな市民参画、ネットワーク形成、そして、そのための有効なコミュニケーションツールが求められているように感じている。

それはおそらく、これまでの市民活動で蓄積された経験や技術の継承といった、いわゆる

「後継者育成手法」の延長線上にはない、もう一つの道であろうと考えている。

また、飛躍的な進化を続ける情報革新の時代にあつて、新たなネットワークコミュニティとは、電話・FAX・E-Mailといった媒体によって結ばれるものではないのだろう。

そんな新たな土壌から、次世代を担う若き生物多様性市民が発掘され、つながることで、地面や水面に這いつくばる地道なフィールドワークと調査・研究・記録の集積が持続していけるのではないだろうか。

正に新たな時代の感性と技術によって新たな活動は組み立てられるべきである。



2018年10月 協議会から発行された「なごや生物多様性ガイドブック」これも協議会とセンターが機能した一つのプラットフォームのかたち

なごや生物多様性保全活動協議会について

協議会の設立

名古屋市には東部丘陵地を中心に 111 箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池生態系の劣化が進んでいると言われています。

COP10 開催決定を契機に、平成 20 年度から 3 年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働でため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成 23 年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的な外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会」（以下「協議会」といいます。）を平成 23 年 5 月 15 日に設立しました。

協議会の設立目的は、「なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通して、身近な自然の保全を実践する」ことです。

協議会の活動

協議会は、設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「なごや生物多様性センター」が担っており、平成 23～25 年度の活動は、環境省からの交付金（環境省生物多様性保全推進支援事業）および名古屋市からの負担金により、平成 26 年度の活動は、一般財団法人セブン - イレブン記念財団の助成金および名古屋市の負担金により、平成 27 年度以降の活動は、名古屋市の負担金のみにより、事業を実施しています。

協議会が平成 30 年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシippアカミミガメ・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内のため池・水路などにおける生物調査と外来種防除、戸田川緑地の池干しによる外来種防除等を実施しました。

また、身近な自然や生きものに一層の関心をもっていただく機会として、7～8 月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール 2018」を、8 月末には「なごや生きもの一斉調査 2018」としてアリの調査を市民のみなさんと共に行いました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすために、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

協議会の取り組みを発信する場として、平成 31 年 5 月 12 日に活動報告会を実施します。

協議会の構成

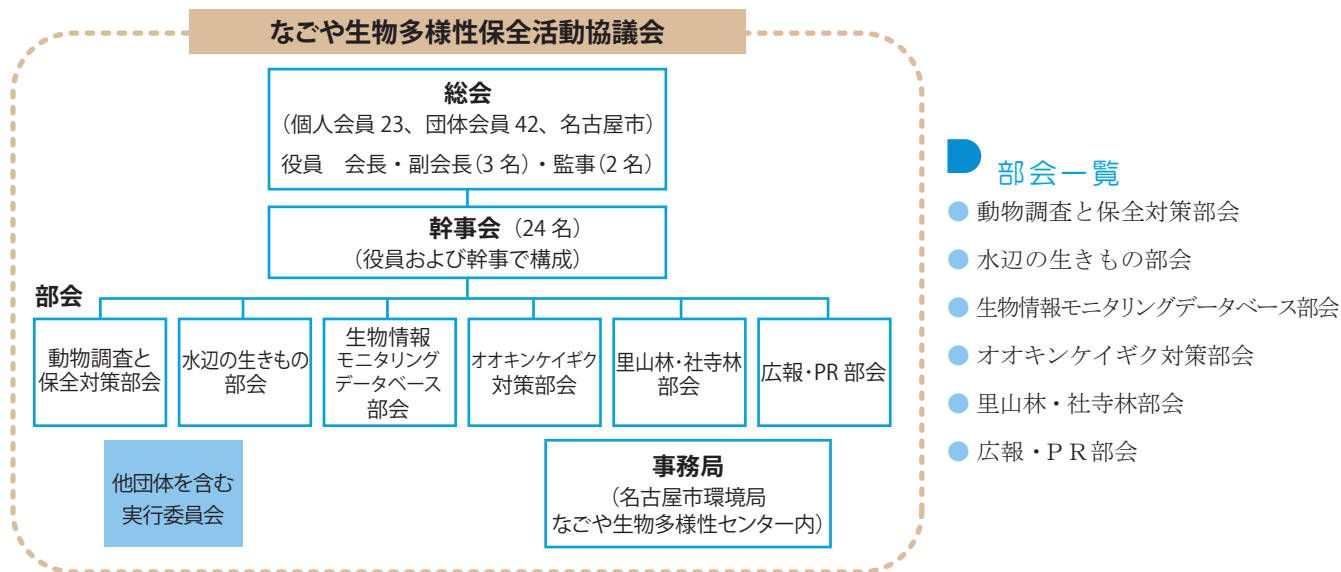
協議会は、平成 31 年 3 月末現在、23 の個人会員、42 の団体会員、名古屋市で構成しています。1 年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

また、役員（会長・副会長 3 人・監事 2 人）と幹事（18 人）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・調査者等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備、連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、協議会が実施する調査やイベントなどへ参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。登録いただいた方へは、イベントなどの募集情報を随時案内しています。（平成 31 年 3 月 31 日現在・登録者数 870 名）

平成30年度協議会の組織・構成



部会一覧

- 動物調査と保全対策部会
- 水辺の生きもの部会
- 生物情報モニタリングデータベース部会
- オオキンケイギク対策部会
- 里山林・社寺林部会
- 広報・PR部会

幹事一覧

(平成31年3月末現在・敬称略)

氏名	所属等	備考
石原 則義	愛知守山自然の会／名古屋自然観察会	
梅本 洋子	花水緑の会	
大塚 徹	市内外来種及びため池調査	
大沼 淳一	個人会員 (専門分野／水質)	
大矢 美紀	山崎川グリーンマップ	
小菅 崇之	個人会員 (専門分野／水生植物)	
柴田 良成	中部蜘蛛懇談会	
鷺見 順子	滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	
瀧川 正子	NPO 法人 なごや東山の森づくりの会	
津田 美子	名古屋市立日比野中学校	
富田 啓介	愛知学院大学教養部講師	
西尾 英孝	なごや環境大学実行委員会	監事
野中 賢輔	なごや外来種を考える会	
橋本 啓史	名城大学農学部生物環境科学科准教授	
堀田 守	名東自然観察会	監事
間野 隆裕	名古屋昆虫同好会	副会長
眞弓 浩二	雑木林研究会	会長
森山 昭彦	中部大学応用生物学部環境生物科学科教授	副会長
安田 和代	名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち	
矢部 隆	日本カメ自然誌研究会	副会長
榊原 靖	名古屋市環境科学調査センター研究員	
長谷川 泰洋	名古屋産業大学環境ビジネスコース長谷川泰洋研究室	
佐藤 裕美子	名古屋自然観察会	
高尾 知基	名古屋市環境局環境企画部主幹 (生物多様性の保全担当)	

なごや生物多様性保全活動協議会について

● 会員一覧

● 団体会員

団 体 名
相生山緑地自然観察会
「あいちの海」グリーンマップ
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
かんでらmonzen亭「笠寺ミツバチプロジェクト」
特定非営利活動法人 環境市民 東海事務所
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会
地球ハグ倶楽部
中部蜘蛛懇談会
中志段味の自然を次世代に伝える会
なごや外来種を考える会
なごや環境大学実行委員会
名古屋昆虫同好会
名古屋産業大学環境ビジネスコース長谷川泰洋研究室
名古屋自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科生物多様性研究センター
名古屋市立鳴子台中学校科学部
なごや森づくりパートナーシップ連絡会
NPO法人 なごや東山の森づくりの会
NPO法人 日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
花水緑の会
隼人池を美しくする会
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名城大学理工学部環境創造学科齊藤研究室
名城大学理工学部環境創造学科谷口研究室
名東自然観察会
名東自然倶楽部
もりづくり会議
守山リス研究会
野生動物生態研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ

(平成 31 年 3 月末現在・敬称略)

● 個人会員

氏 名
飯尾 俊介
伊東 英幸
御池 俊輔
太田 貴大
大塚 徹
大沼 淳一
川瀬 基弘
小菅 崇之
佐藤 裕美子
澤村 壽
高木 順夫
高山 博好
津田 智
津田 美子
寺本 匡寛
土山 ふみ
研谷 厚
富田 啓介
橋本 啓史
伴 知幾
松沢 孝晋
守谷 茂樹
森山 昭彦

● 名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

通常総会の開催

開催日	
5月13日	1 平成29年度事業報告について 2 平成29年度決算報告について 3 平成29年度会計監査報告について 4 平成30年度役員選任について 5 平成30年度事業計画（案）について 6 平成30年度収支予算（案）について

幹事会の開催

第1回	5月24日	1 新規会員について 2 平成30年度幹事について 3 各部会報告等 4 一斉調査について 5 平成30年度定例会について
第2回	6月28日	1 各部会報告等 2 一斉調査について 3 会員活動支援について
第3回	7月26日	1 各部会報告等 2 一斉調査について 3 会員活動支援について
第4回	9月27日	1 各部会報告等 2 ガイドブックについて 3 会員活動支援について
第5回	10月25日	1 各部会報告等 2 平成31年度助成金事業について
第6回	1月24日	1 各部会報告 2 平成31年度協議会事業について 3 平成31年度会員活動支援の募集について 4 平成31年度助成金審査会について
第7回	2月28日	1 各部会報告 2 新規会員申請について 3 会員活動支援について 4 平成31年度協議会事業について

はじめに

市内と周辺地域に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体、市民調査員など）が協力して、種ごとの分布状況や生息環境の特性を明らかにする調査・研究を行っている。また、調査で採集、捕獲した生物や駆除等で捕獲した生物について、計測や解剖、標本化を実施している。それらの結果や標本については「なごや生物多様性センター」に蓄積をしている。さらに、これらの結果や資料を基に、外来種の防除や在来種の保護、保全を計画、実施している。その他、活動内容や調査・研究結果を伝える啓発、展示、環境学習、調査実習、大学生の卒業論文等にも協力している。

主な活動内容

- ・ カメ類調査と外来カメ類の防除対策
- ・ ニホンイシガメの保護・保全活動
- ・ センサーカメラによる哺乳類のモニタリング調査
- ・ 捕獲罠等による哺乳類のモニタリング調査
- ・ 緑地におけるアライグマのモニタリング調査と防除
- ・ コウモリ類のモニタリング調査
- ・ 解剖と標本作製

今年度の主な活動記録

● カメ類調査と外来カメ類の防除対策

内容 天白川、隼人池、塚ノ杵池（猪高緑地）では、カゴ罠による捕獲調査を実施した。また、隼人池では浮島型罠による捕獲調査を実施した。

連携 隼人池を美しくする会、天白・川辺の楽校、名東自然倶楽部、名古屋コミュニケーションアート専門学校。



図1. カメ類調査の講座（なごや生物多様性センター）



図2. カメ類の捕獲調査（天白川）

● ニホンイシガメの保護・保全

内容 現在、オスの確認数が著しく減少しているニホンイシガメについて、山崎川水系の鏡ヶ池（名古屋大学）内で捕獲したニホンイシガメを飼育下で繁殖させ、孵卵器で卵の温度管理をすることによりオス個体の増殖を試みた。また、前年度に飼育下で繁殖させた塚ノ杵池産のニホンイシガメを育成し、オスであることを確認した。

猪高緑地の井堀下池とメダカ池において、ニホンイシガメの幼体を捕食する可能性のあるウシガエルの防除捕獲を実施した。

連携 名東自然倶楽部、なごや外来種を考える会、名古屋コミュニケーションアート専門学校。



図3. 育成したニホンイシガメのオス（塚ノ杵池産）



図5. センサーカメラの設置（才井戸流）



図4. ウシガエルの防除捕獲（猪高緑地・井堀下池）

● センサーカメラによる哺乳類のモニタリング調査

内容 大高緑地、東山動植物園、東山公園南部、才井戸流に自動撮影が可能なセンサーカメラを設置した。

連携 花水緑の会、名古屋大学未来材料・システム研究所林希一郎研究室、中志段味の自然を次世代に伝える会、愛知守山自然の会。

● 捕獲罠等による哺乳類のモニタリング調査

内容 庄内川河川沿い（春日井市大留町5丁目、春日井市下津町、北区楠町味鉢、中村区稲葉地町鶉野）、才井戸流において、シャーマントラップによる捕獲調査および生活痕の目視調査を実施した。

連携 名城大学農学部環境動物学研究室、名城大学野生動物生態研究会、中志段味の自然を次世代に伝える会。



図6. 小型哺乳類の捕獲調査（庄内川）

● 緑地におけるアライグマのモニタリング調査と防除

内容 猪高緑地においてカゴ罠による捕獲調査を実施した。

連携 名東自然倶楽部。



図7. 捕獲罠の設置（猪高緑地）

● コウモリ類のモニタリング調査

内容 庄内川（守山区上志段味東谷）、大村池、才井戸流、モリコロパークにおいて音声調査を実施した。

連携 中志段味の自然を次世代に伝える会。



図8. コウモリ類の音声調査（庄内川）

● 解剖と標本作製

内容 なごや生物多様性センターで収集している動物についての解剖と標本作製を実施した。

連携 名城大学野生動物生態研究会。



図9. 哺乳類の解剖実習（なごや生物多様性センター）

結果と今後について

調査結果の詳細については、今後、まとめて発表していく予定である。ここでは本年度に実施した調査結果の一部について報告する。

● カメ類調査と外来カメ類の防除対策

天白川では天白小橋周辺と音間橋周辺においてカゴ罠による捕獲調査を実施した。調査期間については2018年6月2～3日の2日間で、初日に捕獲講座を実施した。

結果については表1に示した。ミシシippアカミミガメは合計19個体捕獲され、すべて除去した。ミシシippアカミミガメ、クサガメ、ニホンスッポンは捕獲できたものの、ニホンイシガメは捕獲することはできなかった。

次年度も調査を継続する予定である。

表1. 天白川におけるカメ類の捕獲結果

調査地	罠数	アカミミガメ	クサガメ	イシガメ	ニホンスッポン
天白小橋周辺	10基	9	2	0	0
音間橋周辺	5基	10	5	0	3

● ニホンイシガメの保護・保全活動

【ニホンイシガメ・オス個体増殖の試み】

鏡ヶ池で捕獲したイシガメのメスから得られた卵

を 27℃以下の環境下で孵化させた結果、2 個体の孵化幼体が得られた。今後、孵化した幼体を性別が確認可能な大きさになるまで育成し、同じ水系の場所に放逐していく予定である。

前年度に孵化した塚ノ杵池を原産とする孵化幼体を育成し、確実にオスであることを確認した。今後、塚ノ杵池と同じ猪高緑地内にある井堀下池に放逐する予定である。



図 10. 孵化したニホンイシガメ（鏡ヶ池産）

【ウシガエルの防除捕獲】

捕獲したウシガエルは脊髄破壊で殺処分した。ウシガエルの左右の鼓膜後端を結んだ線上の中心の少し下部に窪みがあり、そこに千枚通しの先端を当て、千枚通しの後端を金槌で一氣にたたくという方法をとった。

ウシガエルの捕獲結果については、あなご畏で捕獲したその他の生物とともに、表 2 に示した。

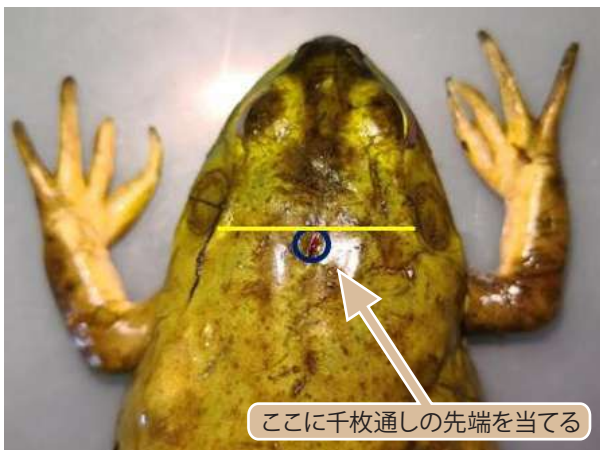


図 11. ウシガエルの防除（猪高緑地の井堀下池）

表 2. ウシガエル防除捕獲の結果（捕獲個体数）

捕獲日	ウシガエル幼生 (オタマジャクシ)	ウシガエル 成体	アメリカ ザリガニ	イシガメ	クサガメ
5月22日	39	15	285	1	1
5月23日	29	5	387	0	3
5月25日	18	12	553	0	1
合計	86	32	1225	1	5

● センサーカメラによる哺乳類のモニタリング調査

本年度、各調査地で撮影された哺乳類については表 3 に示した。

継続してセンサーカメラを設置している大高緑地では、今回、初めてアカギツネが撮影された。また、今回初めてセンサーカメラを設置した才井戸流でもアカギツネが撮影された。

表 3. センサーカメラによる撮影結果

調査地	アカギツネ	タヌキ	ハクビシン	イタチ類	イエネコ	アライグマ	ヌートリア
大高緑地	○	○	○	—	○	○	—
東山動植物園	—	○	—	—	○	○	—
東山公園南部	—	○	—	○	○	—	—
才井戸流	○	○	—	—	○	—	○



図 12. 撮影されたアカギツネ（大高緑地）



図 13. 撮影されたアカギツネ (才井戸流)

● 捕獲罾等による哺乳類のモニタリング調査

シャーマントラップによる小型哺乳類の捕獲結果を表 4 に示した。庄内川においては春日井市の上条町のみ、アカネズミが捕獲された。才井戸流では、カヤネズミとアカネズミの両種が捕獲され、ネズミ類の好適な生息環境であることが示された。

表 4. シャーマントラップによる小型哺乳類の捕獲結果

調査地	アカネズミ	ハツカネズミ	カヤネズミ
庄内川(春日井市大留町)	0	1	0
庄内川(春日井市上條町)	4	0	0
庄内川(北区楠町)	0	0	0
庄内川(中村区稲葉地町)	0	2	0
才井戸流(守山区中志段味)	8	0	3

● 緑地におけるアライグマのモニタリング調査と防除

猪高緑地の塚ノ杵池からこもれば池にかけて、合計 30 個の箱罾を設置した。2019 年 3 月 6 日～27 日の捕獲期間中にアライグマ 1 個体、ヌートリア 3 個体、シベリアイタチ 2 個体を捕獲・回収した。イエネコは 11 回捕獲された。

● コウモリ類のモニタリング調査

コウモリ類が発するエコーロケーションコールを録音・分析した結果、才井戸流にある防空壕の入口でキクガシラコウモリが発した音声を多数確認した。現在、市内でキクガシラコウモリの利用が確認されている「ねぐら」はこの防空壕のみであり、

非常に貴重である。次年度以降、コウモリ類の専門家とも相談し、キクガシラコウモリが「ねぐら」を放棄しないような対策をとるとともに、この個体群の生態を調査する予定である。



図 14. 才井戸流で確認したキクガシラコウモリの音声

● 解剖と標本作製

次年度も本年度と同様、主に学生との連携で解剖と標本作製を進める予定である。また、これまでに作製した標本に正式な登録番号を付け、「なごや生物多様性センター」に収蔵していく。さらに、啓発や展示に使用するための標本作製する予定である。

はじめに

水辺の生きものの部会では、名古屋市およびその近郊にある水域（周辺域を含む）に生息・生育する水辺の生きものについて、なごや生物多様性保全活動協議会員、市民調査員、学生、専門家、保全団体などと協働で分布調査、生息・生育環境調査を行っています。また、環境教育や次世代育成にも力を入れています。これらの活動から得られた知見を発信し、在来種の保全対策や外来種の防除対策を計画・実施することで生物多様性への寄与や保全に繋げています。

平成30年度の活動

- ・池干し
- ・池干しモニタリング調査
- ・カエルの調査と保全対策
- ・水田・水路及びその周辺の生物調査
- ・カワバタモロコの保護と生体標本の維持管理
- ・自然環境保全のための外来種対策および普及啓発
- ・才井戸流のスナヤツメの確認
- ・水辺の植物調査と保全対策

平成30年度の活動記録

● 池干し

○農業文化園・戸田川緑地(とだがわ生態園)



図1. 地曳き網の様子

池干しを平成30年11月25日に行いました(図1)。



図2. 捕獲されたソウギョ (全長102 cm)

池干しでは、19科29種(希少種4種 /14%、外来種12種 /42%)の生きものが確認され、総重量で約430kgの生きものが捕獲されました。最も生物量が多かったのはギンブナの186kg(43%)、次いでコイ(飼育品種)の181kg(42%)の順でありこの2種で全体の85%を占めていました。希少種では名古屋市内で準絶滅危惧種に評定されるミズカマキリが8匹も確認されたのには驚きました。ミズカマキリは名古屋市内の正式な記録も非常に少なく記録としても重要です。外来種では、全長102cmもあるソウギョ(図2)やキンギョも捕獲されました。捕獲した生きもののうち在来種は戸田川へ放流し、外来種はすべて取り除きました。池干し後は約3ヶ月間干した後、カワバタモロコの放流を3月14日に行いました。11月25日放送のメーテレ(名古屋テレビ)とTXNニュース(テレビ愛知)で紹介されました。

また、なごや生物多様性センターが発行する「生きものシンフォニー27号」にも関連記事が掲載されていますのでこちらもご参照ください。

○道徳公園(黎明池)^{れいめい}

5月11日と6月1日にもんどりとタモ網による事前モニタリング調査を行いました。池干しは、12月15日に行われました。主催は、道徳学区連絡協議会並びに南土木事務所ですが、なごや生物多様性保全活動協議会、なごや生物多様性センターや近隣四学区、小・中学校等の協力で行われました。当部会で地曳き網による生きもの採集と生物種の選別について協力させていただきました。池干しにより、7科11種(希少種1種/9%、外来種4種/36%)の生きものが確認されました。希少種では名古屋市で準絶滅危惧種に評定されているミズカマキリが1匹のみ確認されました。12月16日の中日新聞朝刊の市内版と「イッポウ(CBC)」の12月20日放送で紹介されました。

●池干しモニタリング調査

平成29年度に池干しを実施した緑区の滝ノ水北池においてモニタリング調査を行いました。調査は5月17日と11月14日の春と秋の計2回行いました。調査の結果、アメリカザリガニが激増していることが明らかになりました。アメリカザリガニの増加は予想していましたが、池干し前に取り除いた外来水草のハゴロモも復活しない程で、在来のホタルイ群落も縮小するなど想像を超えていました。一方で、ブルーギルなどの外来魚は確認されおらず池干しによる外来魚の駆除は成功したと考えられます。また、これまで確認されていなかった、水質が大変～かなりきれいなところに生息するセンブリ属の一種(*Sialis* sp.)の幼虫(図3)やモクズガニが確認されるなど、池干しの効果も確認されました。今後は、アメリカザリガニをどのように低密度に維持していくことができるかが課題です。



図3. センブリ属の一種(幼虫)

●カエルの調査と保全対策

○平野部に生息するツチガエルの周辺土地利用と 水稲耕作方法の関係

ツチガエルは通常、幼生で越冬し、翌年の5～8月に変態するとされるため、どこかに越冬可能な水辺が存在する必要があります。ツチガエルが確認されている名古屋市およびその近郊の水田は、水稲耕作後は完全に水がなくなり、越冬可能な生息場は見当たらないものの集水樹等で越冬している可能性も否定できません。また、上流部の農業用水路から幼生が供給されている可能性もあります。昨年度の鳴き声調査から、上流部にツチガエルは生息していないことが明らかとなり、農業用水路から幼生が供給されている可能性はなくなりました。今年産まれのツチガエルの幼生(図4)が確実に変態するかを確かめるため、基本10日間ごとに幼生を採集し、頭胴長、全長および幼生の発生段階を調査しました。この結果、6月に産卵された個体が7月下旬から8月上旬ごろに上陸していることが明らかになりました。その後、2回目の産卵と考えられる幼生が確認され9月下旬から10月上旬に早いものだと上陸していることが明らかになりました。また、今年産まれの子が当年変態可能な要因として、水稲耕作方法の中干しの時期が関係していると考えられましたので、7月までの中干しの有無をこれまで鳴き声確認調査を行った161地点で行い



図4. ツチガエルの幼生

ました。さらに、カエル調査水田から100mと300mの円内の植生面積率を環境省「1:25,000 植生図(2001)」から求め、周辺土地利用と水稻耕作方法(5月の湛水状況と7月までの中干しの有無)と合わせてツチガエルの分布をロジットリンク関数による一般化線型モデル(GLM)によるすべての変数の組み合わせからAICによってモデル選択を行いました。その結果、中干しの有無が一貫して選択され7月の中干しの有無がツチガエルの分布に影響を与えることが明らかになりました。

以上のことからツチガエルは、乾田化が進み中干しを行うようになった水田では姿を消し、中干しを行わない水田もしくは、中干しの時期が8月のお盆頃と遅い水田に分布が限られるというように水稻耕作方法の影響を強く受けてきたカエルと言えます。名古屋市でツチガエルが確認された水田は市街化区域であるため、近い将来消失してしまう可能性があります。ツチガエルを保全するためには、中干しをしないもしくはする時期が遅いといったこれまでの水稻耕作方法を維持し、将来的にも水田環境を残すことが重要です。

○『核とミトコンドリアの遺伝子変異による名古屋市周辺と豊田市周辺におけるトノサマガエルとナゴヤダルマガエルの種判別法の検証』
表題は、名古屋大学情報文化学部自然情報科学

科で夏原研究室に所属する森山倫太郎氏の卒業論文のテーマです。当部会では、これまでのカエルの鳴き声調査で得られた名古屋市およびその近郊におけるトノサマガエルとナゴヤダルマガエルの分布情報と標本の提供、新たなサンプル採集の協力を行いました。

その結果、水田への水入れの時期が主に6月初旬と遅い地域においてトノサマガエルとナゴヤダルマガエルが同所的に生息しているような水田では雑種が形成されていることが明らかとなりました。これは、通常は、繁殖時期が4月～5月と早いトノサマガエルが水田に水がないがため繁殖することができず、6月初旬に水田に水が入ったタイミングで産卵するため、ナゴヤダルマガエルの繁殖時期と重なってしまうためであると考えられます。ツチガエルと同じように水稻耕作方法がカエルと密接に関係している例と言えます。

● 水田・水路及びその周辺の生物調査

○アカハライモリ

名古屋市では、生息域が極めて狭く、現在の生息域も健全とは言えず消失してしまう恐れが著しく懸念されるとされ、最もランクの高い絶滅危惧IA類に評定されています。そんなアカハライモリですが、昨年度天白区で新産地が確認され繁殖していることが確認されました。本年も当該地で繁殖しているか確認したところ幼生を確認することができ、昨年につき繁殖していることが確認されました(図5)。



図5. アカハライモリの幼生

ただし、放流個体の可能性もあるため、今後、DNA 解析をする必要があります。

○郷下川の生きもの調査

カワバタモロコの採集情報が得られたため、昨年度に続き郷下川で10月14日に生きもの調査を行いました。残念ながら、カワバタモロコの生息は確認することはできませんでした。

● カワバタモロコの保護と生体標本の維持・管理

カワバタモロコは名古屋市において絶滅危惧 IA 類に評定されており、開発工事により生息地を失ったカワバタモロコを一時的に保護しています。また、この個体群は事前に行った mtDNA 分析により、濃尾平野の系統ですが独自のハプロタイプを有していることが分かっています。

昨年度の屋外での人工繁殖により、平均水温、前日水温差および日較差（水温）がカワバタモロコの産卵を促している可能性が示唆されました。しかし、5月から9月までの間に産卵を確認していますが、親魚を多数入れて産卵を試みたため、多回産卵型なのかと1匹あたりの産卵数が不明でした。そこで、今回は、屋内で1水槽あたり1ペアとし、ヒーターとサーモスタットにより水温を調節することで本当に前日水温差と日較差が効いているのかを追試験をしました。日長はタイマーによる照明の on/off により on/12h、off/12h としました（図6）。さらに、産卵回数と1個体あたりの産卵数を調べました。解析には、産卵の有無をロジットリンク関数による一般化線型モデル GLM、産卵数は負の二項分布による GLM とし、平均水温、前日水温差、日較差、温度操作（1/0 のダミー変数）を説明変数とし、すべての変数の組み合わせから AIC によってモデル選択を行いました。その結果、最適産卵水温の範囲内において、日較差が最も産卵に影響していることが分かりました。さらに、日較差が大きいほど1回あたりの産卵数が増える確率が高いことが分かって

きました。

繁殖期間中の産卵回数は、1ペア平均で15.1回（SD=7.7, mean=14）であり多回産卵型ということが分かりました。1匹あたりの産卵数はこれまで、4cm程度の♀の卵巣内に800個程度蔵していたという報告がある程度で分かっていません。今回の調査で、これを上回る1♀で最大約1200（average=643, SD=398, mean=591）産卵することが明らかとなりました。

今回の実験により、日較差がカワバタモロコの産卵を促していることが分かりましたので、今後は、日長、産卵基質の選択性を調査し、カワバタモロコの産卵方法の確立と自然環境下における保全に役立てていきたいと考えています。さらに、来年度からは、小学校と連携でカワバタモロコの繁殖とそれに付随した環境教育を行う予定です。今後益々カワバタモロコの保全に力を注いでいく予定です。



図6. 水槽繁殖実験の様子

日時 通年

協働 名城大学野生動物生態研究会

● 外来種対策

○ニホンヒキガエルの捕獲

アズマヒキガエルの核 DNA 解析の結果、猫ヶ洞池で採集した卵塊がニホンヒキガエルと亜種間交雑している可能性が高いことが分かりました。mtDNA 解析からニホンヒキガエルが検出されていますので、♀のニホンヒキガエルが産卵していることが確

実です。7月16日と9月26日に成体のニホンヒキガエルの捕獲を試みましたが残念ながら捕獲には至りませんでした。ヒキガエルの寿命は自然界では7年程度のため、毎年、卵塊を駆除し続けることとニホンヒキガエルの成体を捕獲する必要があります。

○アメリカザリガニの駆除



図7. アメリカザリガニ連続自動捕獲装置

アメリカザリガニの捕獲効率化を図るため、NPO法人シナイモツゴ郷の会が開発したアメリカザリガニ連続捕獲装置を1台購入し、昨年度池干しを行った滝ノ水北池に設置しました(図7)。その結果、捕獲の効果があることは分かりましたが、一般市民による当池で繁殖しているカルガモの雛への餌の給仕がある場合は、誘因効果が低下して捕獲効率が落ちること、餌に湿気を含むことにより虫が発生するなどメンテナンスにやや難があることが分かりました。さらに、過去に定置網を設置した際、罟が壊されたことがあることから、設置が目立つ大型の罟を多数設置することは難しいと考えられました。そのため、今後は、餌なしでも捕獲効果があると言われるアナゴ籠を用いてアメリカザリガニの低密度化を図って行きたいと考えています。

● 水辺の植物と保全対策

○オニバスをはじめとする植物調査



図8. トチカガミの花

7月11日と10月2日に名古屋城外堀において、水辺の植物調査を行いました。オニバスは7月の調査時には、多数確認することができましたが、10月調査時には、全滅していました。トチカガミは、昨年度37年ぶりに再確認された名古屋市では絶滅種と扱われている浮遊植物ですが、今年度も昨年確認された地点を中心に確認することができました(図8)。

さらに、種子の結実も確認されたことから近い将来、万が一消失しても種子から再生する可能性を確認することができました。今年度は、水位が下がった場所にカタバミなどが生育しているのが確認され、冬期に長期にわたり水位が下がっていたと推察されます。この結果、透視度がかなり改善されました。そのため、光が水中に届くようになりヤナギモやオオカナダモが多く発生しているのが確認されましたが、10月の調査時には透視度が悪化しており消失していました。また、ハスも点々と発芽しているのが確認されました。一方で、これまで1株だけ残っていたハスはヨシに被圧され消失してしまいました。

○東山の水田における水田雑草調査

東山の森の「くらしの森」には、平成 21 年に造成された 3 面に分かれた約 480 m²の水田があります。この水田において平成 27 年度に絶滅危惧種のトリゲモ類が確認されました。稲作はこれまでと同様に除草剤や農薬を使わずにこれまで通り行われています。トリゲモ類とその他の植物も合わせて調査を行ったところトリゲモ類は変わらず確認することができました。平成 29 年度は 3 面ある水田の下段の水田でしかトリゲモ類を確認することができませんでしたが、本年は、中段部の水田に多く確認され、上段の水田にはトリゲモ類どころか水田雑草が全く生育していませんでした。中段と下段の水田には、アブノメやコナギが多く、キカシグサとヒメミズワラビも僅かに確認することができました。水田雑草が少ない場所では水が濁っていました。一方で、水田雑草が多い場所では水に透明感がありました。今後も引き続き変遷を調査する予定です。

日時 9月20日

○滝ノ水北池で確認された絶滅種のコシンジュガヤらしいものについて



図9. マネキシングヤ

平成 29 年度に行った池干しにともなう植物相調査において名古屋市では絶滅したとされるコシンジュガヤらしいものを確認しましたが、標本を採集していなかったため、正確な同定ができていませんでした。10月9日に標本採集を行った結果、コシンジュガヤではなくマネキシングヤ（図9）であることが確認されました。なお、採集した標本はなごや生物多様性センターに寄贈しました。

○滝ノ水北池の埋土種子発芽調査

平成 29 年度におこなった池干しの際に池の中の土を採集しました。この土の中には様々な種類の植物の種が存在していると考えられます。埋土種子からは、コウガイゼキショウ、カヤツリグサの一種、スゲの一種、イグサ、ホタルイ、ミカヅキグサ、モウセンゴケ、トウカイコモウセンゴケ、アゼガヤツリ、ハリイ、イヌノヒゲ、ニッポンイヌノヒゲ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、イネ科の一種、ミズゴケの一種などが確認されました（図10）。



図10. 埋土種子の発芽実験

日時 10月19日

● 部会の開催

今年度は、3回の部会を開催しました。

日時 6月14日、9月19日、1月10日

今後について

池干しモニタリング調査など継続調査が必要なものは引き続き行います。また、新しいテーマや、調査を基に課題が見つかったものについても調査を行います。また、これまでにデータの蓄積があるものは取りまとめ、知見を広く一般に公開し、生物多様性保全への寄与を図るとともに、積極的に、協働調査、普及啓発を行っていく予定です。活動の内容や趣旨に賛同して頂けて一緒に活動しようという意欲のある方の参加を随時求めていますので気軽にお問い合わせ下さい。

生物情報モニタリングデータベース部会

部会長・名城大学農学部 橋本 啓史

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、協議会の行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成 23 年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

なごやの生物情報の市民通報の窓口となるデータベース登録システムと、集約された情報を基に分布（確認）状況を地図上に表現する解析・発信システムを協議会ウェブサイト上で稼働させており、25 種の生物の分布情報の収集と 7 種の分布図の発信を行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ

<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

平成30年度の活動記録

● 部会の開催

今年度は 2 回の部会を開催した。

● 生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

協議会のウェブサイト上に設置した『生きもの情報登録フォーム』を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。情報を募集したのは表 1 に示す 25 種類の動植物である。また、協議会会員と市民調査員へ 3 回メールでその時期の注目種をお知らせし、情報提供を呼びかけた。

今年度は（平成 30 年 3 月から平成 31 年 2 月 26 日までに）、42 件の情報が寄せられた。昨年度よりは件数が増加した。種別では台湾タケクマバチの 10 件が最多であった（表 2）。寄せられた情

報は管理者等が確認し、信ぴょう性の低いものを除いて、生物情報モニタリングデータベースに登録し、蓄積している。

表 1. 情報を募集している生物の一覧

哺乳類	アライグマ、タヌキ、ハクビシン、ヌートリア
鳥類	ソウシチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、コアジサシ
は虫類	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシippiaアカミミガメ
両生類	ニホンアマガエル、アズマヒキガエル、ウシガエル
魚類	アユ、ニホンウナギ、サツキマス（アマゴ）
昆虫	台湾タケクマバチ、クマバチ、ムネアカハラビロカマキリ、ハラビロカマキリ
植物	オオキンケイギク、外来スイレン

表 2. 種ごとの 1 年間に情報が寄せられた件数

分類	種名	件数
哺乳類	アライグマ	6
	タヌキ	2
	ヌートリア	2
鳥類	コシアカツバメ	2
	ソウシチョウ	1
	ツバメ	2
は虫類	アカミミガメ	6
両生類	ウシガエル	1
	ニホンアマガエル	1
	ニホンヒキガエル	1
魚類	ニホンウナギ	1
昆虫	クマバチ	2
	台湾タケクマバチ	10
	ムネアカハラビロカマキリ	4
植物	オオキンケイギク	1
合計		42

なお、ウェブサイト上の『生きもの情報登録フォーム』から位置情報を登録する際に利用しているグーグルマップAPIの仕様変更があり、その対応を行った。その間、しばらく市民からの情報登録に不具合が出たことをお詫びする。

○協議会の調査結果等のデータベースへの登録

データ入力が済んでいたものの、登録が滞っていた協議会で行った生物調査の結果のデータベース登録をようやく少し進めた。種のマスターデータの作成・修正に向けての検討を進め、鳥類については亜種名を修正し、最新のレッドリストを反映したマスターデータを更新したが、植物についてはセンターの所蔵標本との採用分類に関する統一性の問題などからまだ課題があり、引き続き検討している。

○生物情報のウェブサイト上での提供

ウェブサイト上に公開したデータベースに登録した情報を基に、分布（確認）状況を三次メッシュで地図上に表現するシステム（なごや生物情報閲覧システム）の維持・管理を行った。こちらのウェブサイトでもグーグルマップAPIの仕様変更に伴う対応を行った。

なごや生物情報閲覧システムを介して広く一般に情報を公開する種は、希少種を除き、ある程度の情報が蓄積された種から順次、システムで情報を公開している。今年度末にタイワンタケクマバチを追加し、現在公開しているのは、オオキンケイギク、外来スイレン、ヌートリア、ソウシチョウ、ツバメ、ミシシippアカミミガメにタイワンタケクマバチ（図1）を加えた計7種である。



図1. なごや生物情報閲覧システムでタイワンタケクマバチの分布（確認）状況を表示した時の例

○写真・フィルムデジタルデータ化およびデータベース作成

寄贈された過去のなごやの自然の写真・フィルムを活用するため、一昨年度より写真・フィルムのデジタルデータ化を開始した。一昨年度は寄贈されたネガフィルムのデジタル化を業者委託で行い、今年度はポジフィルムを一眼レフデジタルカメラで撮影する形でデジタルデータ化を進めた。それらの写真の撮影地・対象物・撮影年をデータベース化する作業を進めているところである。なお、まだデジタル化できていないネガフィルムが少し残っている。

○空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）

外来植物対策等を実施中の緑地・ため池等を対象に、植生の経年変化を記録に残すため、ドローンによる空撮を行う事業を一昨年度から開始した。対象地は外来スイレンやオオバナイトタヌキモが分布を広げている猪高緑地内の塚ノ杵池として、11月16日に業者に委託してドローンで空撮を行った。4年間の変化を見ることが出来る（図2）。里山林社寺林部会からの要望もあり、今年度はこれまでもりも広く周囲の樹林地を含む形で撮影した。

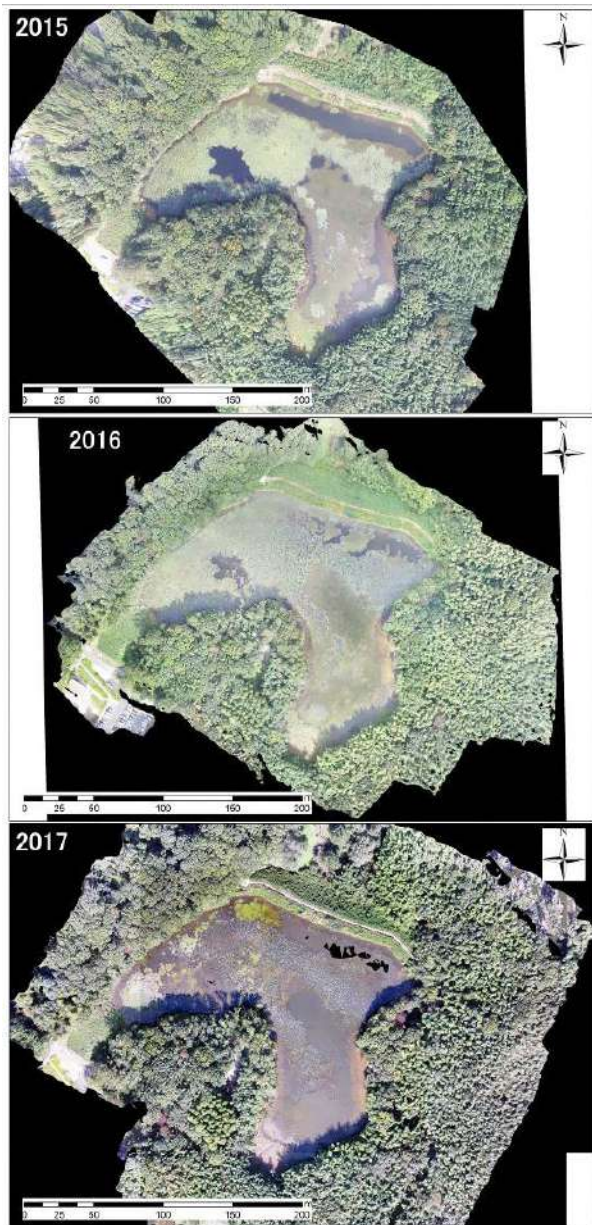


図2. 秋の塚ノ杵池のオルソ画像
左上から2015年、2016年、2017年、上2018年

今後について

部会での議論により、今後はこれまで通り生物情報の収集・登録・発信を行っていく他に、一昨年度から開始した2つの活動も継続して進めていくこととなったが、ドローンによる空撮対象地は変更を検討している。また、過去のなごやの自然の写真・フィルムを追加で寄贈いただける予定もあり、引き続き写真のデータベース化を進めていきたい。

オオキンケイギク対策部会

部会長 野中 賢輔

オオキンケイギクとは

オオキンケイギク（学名：Coreopsis lanceolata）とは北アメリカ原産のキク科の多年草で、背の高さは30～70cm、毎年5月～7月ごろにコスモスに似た黄色い花を咲かせます。戦後、緑化工事に多く使用されましたが、繁殖力が強すぎて侵略性が問題となり、2005年に特定外来生物に指定されました。

なごや生物多様性保全協議会では2013年に市民200名でオオキンケイギクの名古屋市内分布調査を行い、庄内川や天白川の河川敷に多数分布していることを確認しました。その後、2014年に「オオキンケイギク対策部会」を設立。部会員は9名です。



昨年までの主な活動内容

「オオキンケイギク部会」が2014年初めに行った活動は駆除実験です。矢田川のふれあい橋付近で①抜き取り②刈取り③花切りの3つの駆除方法を9週間試行し、再生状況を検証しました。結果的には①の根ごと抜き取り法だけが再生率18%と駆除効果を確認できました。

①抜き取り法	②刈取り法	③花切り法
再生率 18%	826%	161%

2015年度からは山崎川の河川敷において駆除活動を始めました。名古屋建設業協会とも連携して、

市民調査員、部会スタッフで活動してきました。4年間の駆除活動実績は表のとおりです。

日付	人数	40リットル袋
2015年度	延べ216人	93袋
2016年度	延べ211人	153袋
2017年度	延べ48人	26袋
2018年度	延べ173人	36袋

(2017年度は名建協雨天中止のため少ない)

今年度の活動報告

2018年度は、5月12日名古屋建設業協会の活動日が好天にめぐまれて萩山橋南の急斜面密生地に140人投入出来たため、効率良い活動ができました。

● 市民による抜き取り会

5月19日に応募してくれた市民調査員を含む市民合計25人が抜き取り活動をやりました。豊岡コミュニティセンターで、1. 特定外来種について、2. 抜き取り方、3. 見分け方などの勉強会を受けてもらいました。そして「外来種が悪いのではなく運んできた人間が悪いのだから、ゴメンネと言う気持ちで駆除しましょう」と呼びかけました。

全員で出発後は、2カ所で抜き取り活動をしました。毎年抜いても再生してしまうので、昨年から活躍している「根掘りガマ」も使って根をしっかりと掘ることにしました。



▲ 根掘り用の鎌

子供さんも参加されたので、安全な場所を選んで、移動しながらの抜き取りになりました。オオキンケイギクを良く知らない人もいたので実物を駆除できて良い経験になったと思います。

また瑞穂橋などオオキンケイギクが少しずつ生えているポイントもスタッフで手分けして抜き取ることができ、スッキリしました。

「オオキンケイギクは可愛い花だけど、増えすぎて日本の環境には迷惑で、法律でも禁止されている」ということを多くの市民に共有してもらいたいです。



● 5月29日～6月末 部会スタッフ

その後6月いっぱいまでオオキンケイギク対策部会のスタッフ数名で、おもに山崎川の昭和区内のオオキンケイギクを駆除しく予定でしたが、部会長・野中の体調不良のため5月29日のみで活動を中断したことが残念です。

この地域では河川敷内の擁壁が数メートルから10メートルも切り立っており危険を伴うため、ヘルメットやザイルを使つての駆除活動になります。

せっかく山崎川におけるオオキンケイギクの繁茂が少なくなってきたので、来年は6月のスタッフ活動もしっかりやりたいです。

● 2月23日 部会スタッフ冬の抜き取り活動

例年、萩山橋のあたりには埋土種子が多いのか、

大量に再生してしまうため、今年もオオキンケイギク冬の抜き取り活動をやることにしました。冬期は他の雑草が行政により草刈りされた後なので、花を咲かせていなくても、オオキンケイギクの特徴的な芽や葉を見つけやすく抜きやすいのです。

2月23日に部会スタッフ4名で4袋分のオオキンケイギクのロゼットを根ごと引抜きました。冬は1株ごとが小さいので、たくさん取れた方だと思います。



今後について

2019年度も継続して山崎川河川敷のオオキンケイギク駆除活動を続ける計画です。

名建協、市民募集、部会スタッフによる活動になる予定です。特に5月18日(土)には市民参加による駆除会を行うので、興味のある方はなごや生物多様性保全活動協議会 (tel:052-700-7792) にお問い合わせください。



里山林・社寺林部会

名古屋産業大学 長谷川 泰洋／名城大学 橋本 啓史／なごや生物多様性センター 西部 めぐみ

はじめに

里山林・社寺林部会は、本年度で2年目の活動となりました。本部会は、里山林や社寺林等の樹林地を対象として、その保全管理の効果や植生の質（郷土種の保全状況、希少種、巨樹の分布・生育適地等）の調査を進め、より生物多様性保全に資する保全手法を開発し、啓発に資する知見を集積することを目的にしています。

部会事業は、昨年度の活動を引き継ぐ形で事業①植生のモニタリング調査、事業②希少種の生育環境調査、事業③外来種・郷土種使用の実態及び意識に関するアンケート調査、事業④巨樹・巨木の生育状況調査を行い、新たな事業として事業⑤樹幹解析を追加しました。

2年目となる本年も各緑地の特性に応じた調査活動を展開し、里山保全活動の指標となりうる希少種の成長記録や生育適地の調査、巨樹等の成長状況の調査を行い、有意義な成果を得ることが出来ました。

調査活動の詳細や分析結果は別稿にて報告する予定です。本報告では、各事業の活動記録と主な成果の概要を報告します。

平成30年度の主な活動

①里山・社寺林における植生モニタリング調査

- ・アカマツ林育成地のモニタリング（相生山緑地）
- ・樹林地保全地のモニタリング（相生山緑地・天白溪）
- ・竹林管理地のモニタリング（猪高緑地）

②ラン類、ユリ類等希少種の生育環境調査

- ・ラン類の生育環境調査
（主要緑地・希少種のため場所は非公開）
- ・ササユリの成長調査、生育環境調査（平和公園・大高緑地）
- ・クロミノニシゴリの受粉実験（滝ノ水緑地）

③外来種・郷土種使用の実態及び意識に関するアンケート調査

今年度は名古屋産業大学の学生の協力を得て、結果の集計を進めました。次年度は集計を完了して、解析を予定しています。

④巨樹・巨木の生育状況並びに保全状況に関する調査・啓発活動

巨樹の成長調査として、大高緑地（大高竹の会の活動エリア内）から主な巨樹を11本選定して年輪の調査を行いました。

⑤樹幹解析

平和公園内で伐採した樹木の切り株から年輪を読み取り、成長状況を分析しました。

平成30年度の活動記録

現段階で成果がかたちとなりつつある活動について、その概要を報告します。

●竹林管理地のモニタリング

期間 2018年10月

場所 猪高緑地、竹林皆伐エリア（図1）

内容 猪高緑地では、モウソウチク林の皆伐後の植生の変遷をモニタリングするため、2017年4月に皆伐前の竹林の植生及び光環境を記録しました。本活動では、皆伐後1年目の植生を記録しました。

協働 名東自然倶楽部

成果 竹林皆伐後に落葉広葉樹林へと誘導していくための保全活動を行っていきます。そのために、調査した結果から、優先的に除伐する植物を選定します。調査の結果、除伐対象となる種として緑地周辺からの移入と考えられる外来種や園芸種が見られ、また早速、常緑広葉樹が多くみられました（表1）。落葉性の在来種で先駆種のアカメガシワ、クズの被度が約40%、約20%と高い場所で

は、これらを半減する様に管理することがコナラ実生の育成を図るために有効と考えられました。

現状では、育成を図りたいコナラの実生が少なく、高木として残存するキリの実生が多く成長しています。今後もコナラの成長状況を見ながら、保全方法を検討していきます。皆伐前に竹林内に存在したコクランは消滅しましたが、緑地内の他所にはいくつも群落があるため、落葉広葉樹林へ転換後に回復することを期待しています。この観点からも、外来種、園芸種や常緑広葉樹を適正に管理しながら、早期の落葉広葉樹への転換を図っていきます。

表 1. モウソウチク林皆伐後 1 年目で見られた外来／園芸種、常緑性植物。茶色は落葉広葉樹林への転換のため大きく成長したり、繁茂しない様に適切な管理が望まれる種。

種名	タイプ	被度(%)
ヘクソカズラ	常緑	8
サカキ	常緑	5
ヒサカキ	常緑	4
シンジュ	外来／園芸	3
クロガネモチ	常緑	3
サルトリイバラ	常緑	2
シラカシ	常緑	2
センダン	外来／園芸	1
ナンキンハゼ	外来／園芸	1
クスノキ	常緑	1
セイタカアワダチソウ	外来／園芸	+
ジャノヒゲ	常緑	+
ミツバアケビ	常緑	+
イヌザンショウ	常緑	r
ソヨゴ	常緑	r
アオツヅラフジ	常緑	r
カクレミノ	常緑	r



図 1. 竹林皆伐前 (左: 2017 年)、皆伐後 (右: 2018 年)



図 2. 名産大生が参加した調査の様子

●ラン類の生育環境調査

期間 2018 年 10 月～ 2018 年 11 月

内容 名古屋市内で確認された、全国的に絶滅危惧種とされるラン類を対象に、その生育適地を明らかにするための調査を行います。主要緑地で観察された群落を対象に、2m 四方の調査枠を作り、個体数及び個体サイズの計測、光環境、土壌環境等の環境調査を実施しました。

協働 名東自然倶楽部、名古屋工業大学学生、名古屋大学全学技術センター職員

成果 今後、計測したデータを基に、個体数の多い場所と少ない場所、無い場所との環境の差を明らかにしていきます。

●ササユリの成長調査、生育環境調査

期間 2018年4月～2018年9月

場所 平和公園、大高緑地

内容 近年の里山の常緑広葉樹林化により、光を多く必要とする草本の絶滅が危惧されています。本調査では、その中の一種であるササユリに着目して、その生育適地を明らかにすると共に、実際に光の入る二次林を保全するための除伐作業を3カ年計画で実施しています。

協働 NPO法人なごや東山の森づくりの会、大高竹の会

成果 1年目の除伐作業が非常に効果的で、それぞれの緑地での開花個体数は、平和公園で3個体から12個体へ、大高緑地では数年間開花しませんでした。本年もそれらの成長の記録、環境調査（光環境、土壌環境等）、および生育適地とするための除伐活動を行いました（図3）。今後は、成長記録と群落間の環境との関連性を分析して、ササユリの生育適地を明らかにしていきます。



図3. 平和公園のササユリ。
これまでに見られなかった3輪咲きが見られた。

●クロミノニシゴリの生育環境調査

期間 2018年5月～11月

場所 滝ノ水緑地

内容 昨年の開花特性の調査に続き、本年はその結実特性を把握するための袋掛け実験を行いました（図4）。

協働 滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

成果 袋がけの結果、クロミノニシゴリは、自家受粉可能な自家和合性であることが明らかになりました。今後は、市内の他所の個体も調査を行い、本種がよりよく開花、結実する環境を明らかにしていきます。なお、結実特性の詳細については、なごや生物多様性センターの機関誌「なごやの生物多様性」第6号に報告が掲載されますので、ご覧ください。



図4. クロミノニシゴリ、袋がけの様子

●巨樹・巨木の生育状況並びに保全状況に関する調査・啓発活動

期間 2019年1月

場所 大高緑地（大高竹の会活動エリア）

内容 本調査では、市内の巨樹の樹種、サイズ、生育状況等を記録、計測して、巨樹の生育適地、生育特性を明らかにします。また、それらの情報から森の変遷を読み解き、緑地のゾーニングや管理計画に役立てていきます。本年は、2018年および2019年にサ

イズを計測した大高緑地内の主要な巨樹について成長錘による年輪調査を行いました(図5)。

協働 大高竹の会

成果 サイズ計測および成長錘調査の結果を表2に示しました。市内最大級のヤマモモの樹齢は、65年(暫定値)であることがわかりました。

今後について

次年度は2010年に開催されたcop10から10年目で愛知目標の締めくくりの年を迎えます。里山林・社寺林部会では、本年度の事業を発展的に継続することに加えて、2030年に向けて生物多様性保全の機運を盛り上げていくための事業を構想、展開していきます。



図5. 成長錘調査の様子。幹に対して垂直になる様にねじ込んでいく(左:ヤマザクラ)。コアを抜き取る(中:クスノキ)。抜き取ったコア(右:ヤマザクラ)。樹種により固さも年輪の見やすさも随分異なる。

表2. 大高緑地における巨樹のサイズ計測および成長錘調査結果

No.	樹種	胸高直径 (cm)	樹高 (m)	枝張り (m)				樹齢 (成長錘)
				E	W	S	N	
1	ヤマザクラ (4本株立)	35.3	12.6	12.3	12.1	9.6	7.8	計測中
		50.2	-	-	-	-	-	
		42.0	-	-	-	-	-	
		69.5	-	-	-	-	-	
2	ヤマモモ	82.5	13.7	4.0	6.5	3.7	8.8	65
3	クスノキ	79.8	27.7	14.6	3.3	18.8	13.0	計測中
9	コナラ	80.7	28.7	11.5	10.0	8.9	9.9	計測中
8	スギ	64.4	19.7	4.3	1.7	5.2	0.9	計測中
6	オガタマノキ	26.4	12.3	3.9	2.0	2.7	1.7	45
5	メタセコイア	85.2	20.7	6.0	6.7	4.8	6.8	48
7	イヌマキ	30.5	11.6	3.3	3.1	2.9	2.9	31~36
4	シイ	50.6	17.4	8.8	5.3	4.9	8.9	計測中
10	ムクノキ	38.3	13.8	6.5	4.0	6.9	1.4	39
11	ヤブニッケイ	34.8	13.8	2.1	5.3	5.3	8.5	37

*樹齢は年輪コアを正確に読む作業を継続中のため暫定的な値を記載

なごや生きものの一斉調査2018 ～アリ編～

なごや生物多様性センター 西部 めぐみ/寺本 匡寛

はじめに

「なごや生きものの一斉調査」の目的は、多くの市民の方々に身近な自然や生きものに親しみと関心を持っていただくことです。平成23年度から通算8回目を迎えた今回の一斉調査では、最も身近な生きものの一つであるにもかかわらず、普段あまりじっくりと観察する機会がない「アリ」を対象としました。

なお、今回の一斉調査は公益財団法人日本自然保護協会主催の「自然しらべ2018 身近なアリしらべ!」と協力して行われました。

主な活動内容

● 実施体制

- 主催** なごや生物多様性保全活動協議会
 (事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)
- 協力** 公益財団法人名古屋市みどりの協会
 公益財団法人日本自然保護協会
 岸本 年郎 氏 (ふじのくに地球環境史ミュージアム教授)
 寺山 守 氏 (東京大学農学部・理学博士)

● 実施内容

1) 事前リーダー講習会

日程 8月26日(日)、8月27日(月)

場所 なごや生物多様性センター

講師 岸本 年郎 氏

参加人数 59名(個人参加4名)

2) 一斉調査

日程 8月31日(金)、9月1日(土)、2日(日)

参加人数 のべ166名

調査地点 37地点(補足調査含む)

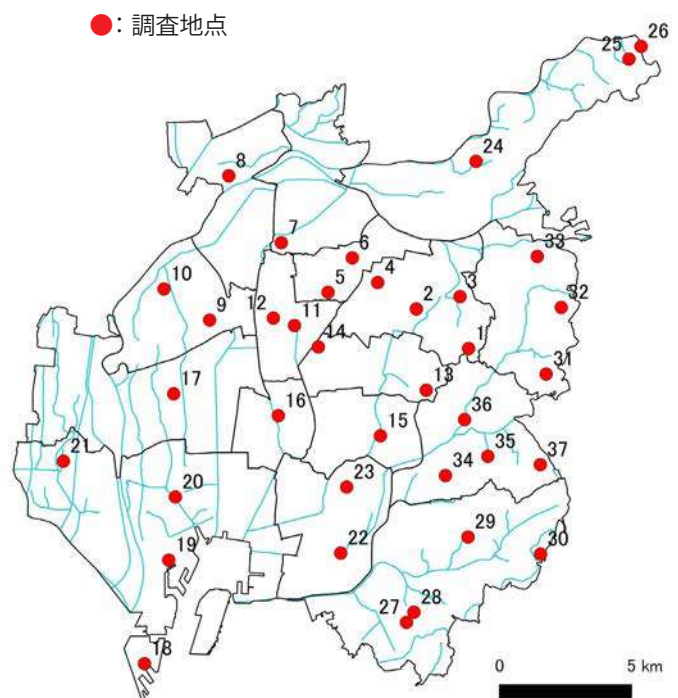


図1. 調査地点

● 実施方法

今回の調査では、様々な環境に生息するアリを調べるために、花壇や舗装路、樹林地など各調査地点内で環境の異なる場所を3か所程度選出して採集を行いました。

調査方法はアリを目視で見つける「見つけ採り」を中心としましたが、落葉層がある環境下では土壤中に潜むアリを探すために篩（ふるい）を用いて調査を行いました（図2）。また、ガムシロップや粉チーズ、ポテトチップスなどのベイトトラップに集まるアリを調査しました（図3）。



図2. 篩（ふるい）を使った採集の様子



図3. ガムシロップのベイトトラップに集まったクロヤマアリ（写真中央）とオオズアリ（星克巳撮影）

調査結果概要

全37地点で43種、1地点あたり平均9種（最低5種、最高18種）のアリを確認することができました。確認したアリの上位10種は表1の通りです。

クロヤマアリは最も普通に見られるアリの一つで、舗装路上などを素早く走り回る姿をよく見かけることができます。今回は4地点（大高緑地B、猪高緑地、明德公園、天白公園）を除くすべての地点で確認することができましたが、確認できなかった4地点についても注意深く探せば見つかる可能性は高いと考えられます。

また、樹上性であるハリブトシリアゲアリの生息環境は自然林、公園、街路樹を問わないため、ほとんどの地点で確認できたと考えられます。

★今回調査の詳細は「なごや生きもの一斉調査2018～アリ編～」報告書をご参照ください（以下ウェブサイト内で公開）。

なごや生物多様性保全活動協議会ウェブサイト：<http://www.bdnagoya.jp/>

表1. 一斉調査で確認された上位10種

順位	種名	確認 地点数
1	クロヤマアリ	33
2	ハリブトシリアゲアリ	33
3	トビイロシワアリ	31
4	アミメアリ	30
5	オオズアリ	26
6	オオハリアリ	26
7	トビイロケアリ	25
8	アメイロアリ	25
9	サクラアリ	18
10	キイロシリアゲアリ	16

なごや生きもの一斉調査2018 ～アリ編～

● 調査で見つかったアリ TOP10

1位 クロヤマアリ



2位 ハリプトシリアゲアリ



3位 トビロシワアリ



4位 アミアリ



5位 オオズアリ
(左：兵アリ、右：働きアリ)



6位 オオハリアリ



7位 トビロケアリ



8位 アメイロアリ



9位 サクラアリ



10位 キイロシリアゲアリ



※すべて寺本匡寛撮影

● 落葉層の重要性

一見して同じような環境の都市公園でも、落葉層（A₀層）の有無で確認種数に違いがありました。例えば、名城公園ではわずかに堆積した落葉層中からトフシアリやヒラタウロコアリ（右写真）といった種が確認されましたが、鶴舞公園では落ち葉がきれいに清掃されていたため、これらの種を確認することはできませんでした。



トフシアリ（左）とヒラタウロコアリ（右）（寺本匡寛撮影）

A₀層の堆積はアリ類の種類に関与する重要な要因とされていることから、生物多様性の観点からは敷地の一部にA₀層が多少なりとも残るような公園管理が重要であると考えられます。



図4. 名古屋市内の都市公園におけるA₀層の差異（名城公園〈左〉と鶴舞公園〈右〉）

● 調査当日の様子

参加いただいた皆様、ありがとうございました！



なごや生物多様性サマースクール2018

部会長 眞弓 浩二

はじめに

当協議会では生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象に、子どもたちが参加しやすい夏休みを利用して「なごや生物多様性サマースクール」を行っています。

「夏休みの宿題応援します!」をテーマに、子どもたちの夏休みの自由研究の助けとなるよう、協議会会員が指導者となり、専門知識を活かした講座を開催。森や川など身近な自然環境に生息する生きものたちに、直接出会えるフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで、幅広い講座を準備しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に、目を輝かせる子どもたち。わくわくする楽しい活動が貴重な体験や学びにつながり、少しでも生物多様性に関心を持ってもらうきっかけとなるよう心がけています。

平成30年度の活動記録

企画名称

なごや生物多様性サマースクール 2018

開催期間

平成30年7月21日(土)～8月11日(土)

講座数

全15講座

参加者数

延べ244名

講師人数

延べ57名



① 翠松園緑地の昆虫探し



講師 二つ池の自然と緑を守る会
 日時 7月21日(土) 10:00～12:00
 会場 翠松園緑地
 対象 小中学生 定員 20名

② 調べてみよう!川の生きもの



講師 NPO 法人日進野菜塾
 日時 7月25日(水) 9:45～11:45
 会場 日進市・岩藤川
 対象 小中学生 定員 30名

③ 矢田川・香流川の水生生物



講師 名古屋市環境科学調査センター
 日時 7月26日(木) 9:30～12:00
 会場 矢田川・香流川
 香流橋地域センター
 対象 小学4年以上 定員 20名

④ 昆虫生息調査



講師 荒池ふるさとクラブ
 日時 7月28日(土) 9:30～15:00
 会場 荒池緑地・農業センター
 対象 小中学生 定員 20名

⑤ ソウムシを探す 東山の森



講師 NPO 法人なごや東山の森づくりの会
 日時 7月28日(土) 9:30～12:00
 会場 東山の森・里山の家
 対象 小中学生 定員 15名

⑥ 竹林調査と水鉄砲作り



講師 花水緑の会(大高竹の会)
 日時 7月29日(日) 10:00～12:00
 会場 大高緑地
 対象 小学3年以上 定員 20名

7 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう!



講師 相生山緑地オアシスの森くらぶ
 日時 7月30日(月) 9:50～12:00
 会場 相生山緑地オアシスの森
 対象 小学4年以上
 定員 10名

8 猪高の池の水質調査



講師 名東自然倶楽部
 日時 8月4日(土) 9:30～12:00
 会場 猪高緑地
 対象 小学4年以上
 定員 20名

9 葉っぱの標本づくり&葉っぱを食す



講師 相生山緑地自然観察会
 日時 8月5日(日) 10:00～12:00
 会場 なごや生物多様性センター
 対象 小学4年以上
 定員 15名

10 天白川の水源地を訪ねてみよう



講師 名古屋自然観察会
 日時 8月5日(日) 9:30～12:00
 会場 日進市/岩藤川上流部
 対象 小中学生
 定員 20名

11 池のプランクトンの世界



講師 滋賀県琵琶湖環境科学センター
 名古屋市環境科学調査センター
 日時 8月7日(火) 10:00～15:00
 会場 午前:茶屋ヶ坂池・滝ノ水北池
 午後:なごや生物多様性センター
 対象 小中学生 定員 20名

12 大矢川源流域の生きもの調べ



講師 愛知守山自然の会
 日時 8月8日(水) 10:00～12:00
 会場 大矢川源流域
 対象 小中学生
 定員 20名

13 チリメンモンスターを探せ!



講師 「あいちの海」グリーンマップ
 日時 8月11日(土) 9:00～15:00
 会場 南知多大井公民館
 対象 小学4年以上
 定員 30名

14 甲虫の採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
 日時 8月11日(土) 9:00～15:30
 会場 午前:猪高緑地
 午後:なごや生物多様性センター
 対象 小中学生
 定員 30名

15 チョウの採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
 日時 8月11日(土) 9:00～15:30
 会場 午前:猪高緑地
 午後:なごや生物多様性センター
 対象 小中学生
 定員 30名

定例会

はじめに

定例会は、協議会メンバーの親睦を深めるため「お互いを知ろう」、「お互いに学び合おう」をテーマに平成24年10月から始まりました。

平成27年度までは毎月1回の開催でしたが、28年度から偶数月の第1水曜日と、2ヶ月に1回の開催に変更となりました。スピーカーの選出は、各月の担当幹事が決めます。幹事自身がスピーカーとなったり、紹介したいと思う方を招いて、自分達の活動の紹介や、研究しているテーマなどをお話していただいています。

開始当初は協議会メンバーに限られていましたが、今は市民調査員や一般の方も参加できるようになっています。日頃聞くことのできないディープな内容のお話を、スピーカーの方からわかりやすく解説していただける機会はなかなかありません。そんなこともあってか、毎回この会を楽しみにしている常連さんも増え、時には大学生ばかりでなく小学生まで参加される事もあり、この会の広がりを感じています。

今年度も偶数月の第1水曜日、午後7時から、場所はなごや生物多様性センターの会議室で開催します。皆さんの参加をお待ちしております。

また、スピーカーとしてお話ししていただける方も募集しております。



図. 定例会の様子

● 開催実績（平成30年4月～平成31年3月まで）

回	月日	発表者	内容	参加人数	
54	4/4	担当幹事 瀧川 正子 (なごや東山の森づくりの会)		32	
		なごやの生き物調査の会	井上 晶次		2006年から13年間の灯火採集の報告 なごやの虫たちが教えてくれたこと
		「愛知県の地質とジオサイト」 「名古屋の大地とその生い立ち」 著者	村松 憲一		プラタモリで見た名古屋城石垣の石材となごやの地層
55	6/6	担当幹事 榑原 靖 (名古屋市環境科学調査センター)		36	
		愛知教育大学	深谷 香奈		①ミトコンドリアDNA塩基配列を用いた名古屋市及び周辺地域におけるアズマヒキガエルの遺伝的多様性の研究
		なごや生物多様性センター	寺本 匡寛		②名古屋市内及びその近郊に分布するカエルの調査 (ツチガエルの分布を規定している要因) ③名古屋市及びその近郊における水田棲カエル類の分布モデル
56	8/1	担当幹事 石原 則義 (愛知守山自然の会)		23	
株式会社 地域環境計画	廣永 輝彦	ポリネーター(送粉者)			
57	10/3	担当幹事 小菅 崇之 (個人会員)		30	
		野生動物生態研究会	今井 洗貴		活動報告 (カワバタモロコ) や調査や保全活動
		なごや生物多様性保全活動協議会	小菅 崇之		東海地方の水辺の植物
		なごや生物多様性センター	西部 めぐみ	豊田市の生物多様性	
58	12/5	担当幹事 石原 則義 (愛知守山自然の会)		27	
東谷山湿地研究会事務局	森 勇一	[見所いっぱい東谷山-湿地の成立は、いつから?] 東谷山南西湿地のボーリング調査報告書作成事業より			
59	2/6	担当幹事 橋本 啓史 (個人会員)		22	
		細口池生きもの復活クラブ	浅井 正明		①「帰ってきたツバメの大群～ヨシ原再生の道のり～」
		名城大学農学部	橋本 啓史	②「旧・名城大学標本庫に所蔵されていた八事裏山地区を中心とした名古屋土産植物標本群」	

会員活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、それを通じたなごやの生物多様性の保全を目的に、活動支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用負担
(調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当)
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内(月1回/メール・ファックス)

平成30年度は、以下の活動について支援を行いました。

平成30年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
「あいちの海」グリーンマップ	南知多町長谷崎・聖崎の海の生物調査
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	滝ノ水緑地におけるトンボの調査
荒池ふるさとクラブ	荒池緑地 昆虫生息調査・水辺の生きもの調査
名古屋自然観察会	小幡緑地 越夏昆虫 現地研修会
NPO法人なごや東山の森づくりの会	水源の森の樹幹解析ワークショップ
名古屋自然観察会	愛知県における外来魚問題
名古屋昆虫同好会	講演会
名古屋市環境局なごや生物多様性センター	「中村公園ひょうたん池・太閤池」の環境保全事業

上記以外にも、34件の物品の貸出を行いました。

● 平成30年度 市民調査員への催事案内件数

月	H30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31年 1月	2月	3月
件数	3	9	3	3	2	4	5	7	2	3	1	5

南知多町長谷崎・聖崎の海の生物調査

「あいちの海」グリーンマップ 大矢 美紀

はじめに

愛知県は、南半分が海に接しています。名古屋市内からも車で少し遠出すれば、三河湾や伊勢湾などの海を楽しむことができます。しかし、私たち名古屋市民にとって、海は心理的に遠い存在であるような気がしてなりません。

1959年の伊勢湾台風による大きな被害が、人を海から遠ざけたのでしょう。この台風のあと、愛知県の海では人の命と財産を守るために、あちこちで大規模な護岸工事が行われました。浅い干潟の多くは埋め立てられ、陸地と海は、高い護岸で仕切られたのです。人が海に近づきにくくなったのは、当然の結果なのでしょう。

そんな中で、わたしたちがフィールドとし継続的に調査を続けている南知多町長谷崎・聖崎は、奇跡的に自然のままの海岸が残された場所です。「海のゆりかご」と呼ばれるアマモ場がひろがり、磯や干潟もあります。ここは、ひじょうに生物多様性に富んだ場所ですが、残念なことに漁業資源以外の生物が調べられていません。

新種も発見していますが、わたしたちが調査をしなければ、その存在すら知られないまま消えていく可能性がある生き物もいるのです。

ここでの本格的な調査は、今年度で3年になります。

調査結果

参加者 2018.3.31 夜中～4.1・4.2 /各8名

指導者 柏尾翔（きしわだ自然資料館学芸員）

4月2日午後は、名古屋港水族館飼育員、慶應大学環境情報学科学学生2名と、長谷崎聖崎の生きものについて情報交流会。

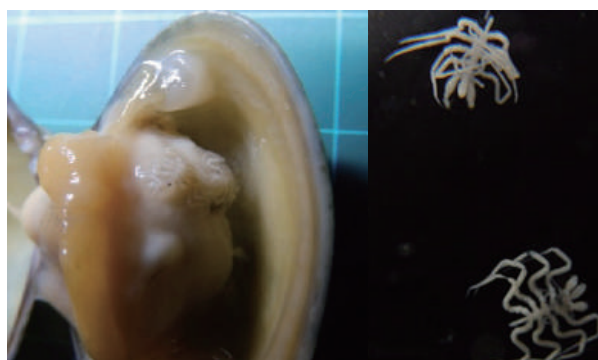


▲夜間調査で見つかった未記載種のイカリナマコ



▲世界最小のイカであるヒメイカ（左）。ここのアマモ場では多数生息している。ツツノオトシゴ（右）は激減しており、めったに見ることが出来なくなった。

ウミウシについては、エダウミウシ、ヤミヨキセワタ、クロシタナシウミウシ、フジタウミウシ、ミノウミウシ、コマユミノウミウシ、コネコウミウシ、ネコジタウミウシ、アマクサアメフラシ多数、アメフラシ、クロヘリアメフラシ



大井・鳶ヶ崎のアサリよりカイヤドリウミグモを多数見つけ大井漁協に対応をお願いしました

まとめ

長谷崎・聖崎の生物については、ウミウシと貝類を中心に、2019年度に論文にまとめる予定です。

(2019.3.17～19にも調査を実施しました。)

滝ノ水緑地におけるトンボの調査

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会 鷲見 順子

はじめに

滝ノ水緑地では、2017年11月に池干しをおこない、バス類、フナ類などを捕獲し、池を覆っていた外来種のコシアキトンボもかなり除去した。

なごや生物多様性保全活動協議会は、2014年から池の生きもの調査をおこない、池干し後もモニタリング調査を続け、池干し後のアメリカザリガニの捕獲もおこなってきた。

池干し前の調査(2014～2016)では、13種のヤゴ(注)が確認されたが、池に飛来するトンボで、ヤゴが確認できていない種もあると考え、2018年6月から10月までの5回、滝ノ水緑地に飛来するトンボの調査を、名古屋昆虫同好会の成田茂生氏に依頼した。10月21日には、成田氏から当会会員向けに、今回の結果をふまえて、トンボの好む環境についての解説があった。

調査結果

●観察できたトンボ

6月27日 10:00～12:00 天候:晴れ

シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、
コシアキトンボ、ギンヤンマ

7月22日 7:00～8:00 天候:晴れ

シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、
コシアキトンボ、ギンヤンマ、ウスバキトンボ

8月16日 6:00～8:00 天候:晴れ

シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、
ウスバキトンボ

9月6日 14:00～15:00 天候:曇時々雨

確認できず

10月21日 9:00～11:00 天候:晴れ

ウスバキトンボ

確認できたトンボは5種にとどまり、種類、個体数ともに非常に少なく、イトトンボは確認できなかった。この傾向は、池干し後のモニタリング調査でも示されている。

原因は、前年の11月におこなった池干しにあると考えられる。バス類などの外来魚が完全に駆除できたことにより、アメリカザリガニが想定以上に大増殖して捕獲が追い付かず、外来種のコシアキトンボと在来種のコシアキトンボが食害により壊滅状態になり、ヤゴの生育が困難になったと推測している。



▲ 滝ノ水緑地

まとめ

雑木林と湿地をあわせ持つ滝ノ水緑地の池は、自然度が高く、本来ならば豊かな生態系が存在するはずで、30年ほど前まではハッチョウトンボの棲息が確認されていた場所である。

池干しにより、外来魚が取り除かれた現在、アメリカザリガニを減らし、水草が生育できる環境となるような対策を、なごや生物多様性保全活動協議会とともに考え、協力しながら実行していく努力をしたいと考えている。

(注) アオイトトンボ、キイトトンボ、アジアイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ、モノサシトンボ、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、タイワンウチワヤンマ、シオカラトンボ、コシアキトンボ、マユタテアカネ、マイコアカネ(以上13種)

荒池緑地 昆虫生息調査・水辺の生きもの調査

荒池ふるさとクラブ 高橋 久志

はじめに

荒池緑地での昆虫調査は平成 16 年のクラブ創設以来、毎年開催している。夏休みに行われるため、もりもり隊（子供会員）に最も人気の調査といえる。

今年は 7 月 28 日になごや多様性保全活動協議会のサマースクールと共催で、一般の参加者 29 名とクラブ員、講師の総勢 70 名で調査を行った。

調査結果と感想

前日に緑地内の雑木林に昆虫トラップを設置、当日は朝 9 時 30 分から A 班と B 班に分かれて雑木林に入り、トラップの回収と昆虫の捕獲を行った。子供たちの一番のお目当てのカブトムシやクワガタムシは少なく、ちょっと残念な結果だった。続いてトンボ池と田んぼに移動し周辺の草原の調査を行った。バッタ類やトンボ、チョウなど、たくさんの昆虫が捕虫網で捕獲できた。午後からは農業センターの講習室に戻り、講師の岩田圭二氏、内藤遊多氏、鶴飼晋氏のアドバイスで同定作業を行った。



● 昆虫調査結果

	種数	個体数
バッタの仲間	14	39
甲虫の仲間	9	12
カマキリの仲間	4	21
セミの仲間	3	5
チョウの仲間	8	12
トンボの仲間	5	9
合計	43	98

● 水辺の生きもの調査（二つ池）

実施日 2018 年 8 月 19 日 参加者 23 人



荒池緑地には二つ池という小さなため池がある。昔は農業用として使われていたが、現在は荒池ふるさとクラブが耕作している水田の水源であるとともに、水生生物のビオトープでもある。

調査はなごや生物多様性センターの協力を得て外来種駆除を兼ねて行った。当日は 10 時から池に仕掛けたカメ罟とモンドリを参加者で引き上げた。魚類ではモツゴもほか、外来種のカダヤシが多く捕獲できた。また、アメリカザリガニも多かった。講師の鶴飼晋氏からガタヤシがニホンメダカに与える影響などの話しを聞いた後、同定作業を行った。過去 3 年間のデータ（鶴飼晋氏提供）では在来種のモツゴがやや増え、アメリカザリガニが減少傾向にあることがわかる。

	2015	2016	2017	2018
スジエビ	231	900	416	771
アメリカザリガニ	100	466	121	72
モツゴ	6	147	34	62
カダヤシ	/	830	291	279
ウシガエル	0	0	0	0
カメ類	0	0	0	0

終わりに

天白区は住宅開発が盛んで荒池緑地は貴重な里山となっています。今後も調査と研究を続け自然環境の保全に努めていきたいと思ひます。

小幡緑地にて昆虫の夏越の観察報告

(小幡緑地 越夏昆虫 現地研修会)

名古屋自然観察会 石原 則義

はじめに

今年の1月、小幡緑地にて、愛守会の自主研修として、櫻谷先生（元近畿大学農学部教授）を講師に招き、越冬昆虫の観察をした。

2月には、同先生を、名古屋自然観察会の総会の折の講演会の講師としてお招きし、「自然観察のポイント」の講演をしていただいた。2月の講演会の折に、越冬だけではなく、越夏する昆虫もいるということをお聞きし、8月4日（土）午前中、小幡緑地にて越夏昆虫の研修会を実施した。総勢13名の参加である。

調査結果

● テングチョウの越夏を確認

テングチョウは、てんぐのように顔の先が尖っている茶色っぽいチョウ。羽根の表面にはオレンジ色の紋がある。鼻のように見えるのは、下唇ひげ（パルピ）という部分。成虫のまま越冬し、早春から飛びはじめる。里山や公園内のよく茂ったヒノキやカシ類などの枯れた小枝で成虫で越夏もする。信じられなかったが枯れ枝で、枯れ葉そっくりに越夏していた（図1）。幼虫は、エノキの葉を食べ年に2回発生する。

昆虫は、変温動物で夏は高温や乾燥で発育や活動が停止したり、餌の発生の減少、餌植物の質の低下などによって休眠（夏眠）する種が知られている。

テングチョウは、よく茂った涼しい公園林内で越夏していた。

ヤママユを見つけた。ヤママユの幼虫は、アベマキなどの葉を食べ、7月頃に繭（まゆ）をつくって蛹（さなぎ）になる。8月から10月にかけて羽化し、成虫となる。当日は発見されなかったが、ウスタビガは、11月に羽化し成虫となる。それまでの間は、繭の中で蛹となり越夏している。



図1 テングチョウの夏眠

少し歩いたら、オニヤンマを発見、羽化したばかりなのか、暑すぎるのか、一休みしていた。グリーンの複眼と、はっきりした黄色と黒色のしま模様を持つ、日本最大のトンボ。大きいだけに、幼虫から成虫になるまでに3～5年はかかる。池・川の上をゆうゆうとパトロールする。

まとめ

公園のコナラの重なった葉の間で、テントウムシ類の成虫が越夏していた。葉が日光を遮り、葉の蒸散作用による気化熱で、涼しいかもしれない。

ススキの株元にナナホシテントウムシが越夏しているということからススキの株元を探したが、ナナホシテントウムシはみつからなかった。ススキは茅葺屋根に使われているように、断熱効果が高く、夏は涼しく、冬は温かく生活ができる。昆虫もこうしたススキの性質を利用している。普通、夏は暑すぎて観察会に適さないが、昆虫のしたたかさには驚かされた。

櫻谷先生には感謝である。

テングチョウの写真は、布目さんから提供いただいた。感謝に尽きる。

なごや東山の森 水源の森の樹幹解析

(水源の森の樹幹解析ワークショップ)

NPO法人 なごや東山の森づくりの会 瀧川 正子

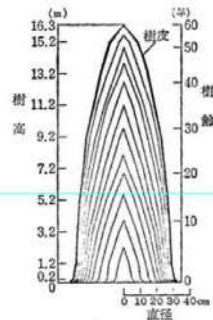
はじめに

東山の森は南部の東山公園と北部の平和公園からなり面積は約 400ha あります。平和公園南部に山崎川の源流の森のひとつで約 12ha の特別緑地保全地区、称して「水源の森（仮）・ハンノキ湿地」があります。H29 年度になごや生物多様性保全活動協議会の助成金を受けて植生調査、鳥類調査、昆虫類調査、土壌動物調査他の生物資源調査を行いました。まだ調査途中ですが湧水湿地再生への基礎資料となりました。

この水源の森（仮）の樹木 5 種（サクラ、コナラ、ソヨゴ、ハンテンボク、モミジバフウ：各樹高 12～15m）を伐倒しての幹を 2m 毎に切り分けて円盤状の樹幹解析用サンプル採取した。その断面に見られる年輪を測定してつなぎ合わせて、樹木の生長過程を調べるワークショップを行った。



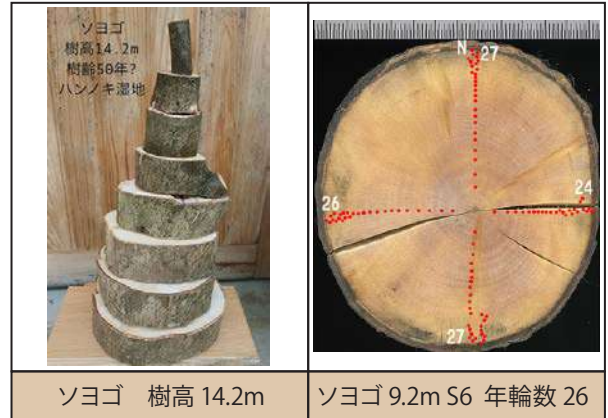
▲特別緑地保全地区の看板



▲樹幹解析図 web

活動内容

- ・2017 年冬 樹を伐倒し、サンプル採取をする。



ソヨゴ 樹高 14.2m

ソヨゴ 9.2m S6 年輪数 26

- ・9月28日(15人)と12月16日(23人)の2日間、武田明正氏(三重大名誉教授)を講師に迎えて里山林・社寺林部会と合同で、モノサシ、ルーペ、彫刻刀、エンピツを使って年輪を数える。



1. 各サンプルの年輪の数

サンプルNo	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9	S10	
サンプル採取の位置	0.2	1.2	3.2	5.2	7.2	9.2	11.2	13.2	15.2	17.2	樹高m
コリノキ 年輪の数	24	22	19	15	12	10	6	4	3	-	16.80
ソヨゴ	50	46	43	42	34	26	24	10	-	-	14.20

2. 各サンプルの平均半径 (cm)

コリノキ	年輪の数	35	28	25	21	19	13	10	3.2	2.0	-	16.80
ソヨゴ		21	18	15	13	9.1	6.8	5.3	1.0	-	-	14.20

※サクラ、コナラ、モミジバフウのデータは省略

まとめ

ため池跡地の湧水の水源の森（仮）・ハンノキ湿地の保全再生を目指して、樹種を在来種サクラ、コナラ、ソヨゴ、そして外来種コリノキ、モミジバフウと欲張ったため、データ取りに手間取り、樹幹解析図（左）の作成と分析まで到達することができませんでしたが、こうして樹種や本数を増やして求められた結果は、今までの森の成長状況などを知るのに役に立ちます。

「愛知県における外来魚問題」

名古屋自然観察会 石原 則義

はじめに

10月8日(月・祝)日本特殊陶業市民会館の3階第1会議室において、名城大学准教授の谷口義則氏から、「愛知県における外来魚問題」、オヤニラミとコイについての問題点を講演いただいた。聴衆は、58名。

調査結果

● オヤニラミ

スズキ目ケツギョ科の在来淡水魚で、関西以西、岡山県に広く自然分布している。本来分布しないはずの東京都、愛知県、滋賀県などで確認されるようになった。

2016年から2017年の7月～11月に犬山市を流れる五条川源流部の流程約2.0kmにおいてオヤニラミの体長、体重計測、食性・年齢解析の生息状況、駆除に必要な努力量を明らかにするために調査をした。生息状況としては、当歳魚から成魚(0歳魚～3歳魚)。体長は、1.7～10.1cm、平均は4.8cmであった。流れの緩やかなところに生息。陸上・水中の植生付近に生息。

2016年は、捕獲せず、2017年は、夏季調査区間で、35ヶ所中19ヶ所で95個体駆除。秋季調査区間では、5ヶ所中4ヶ所で19個体駆除。

● コイ

コイは、私たち日本人に最も親しみのある魚の一種である。しかし、コイの放流の是非が問われるようになった。

コイは、野生型(日本在来)と飼育型(ユーラシア大陸から移入)の2タイプに分けられる。野生型は、琵琶湖にのみ生息。絶滅の危機にあるほど個体数は減少している。

愛知県内の広域に生息するコイのほとんどはユーラシア大陸原産の飼育型もしくは野生型と飼育型の交雑個体である。日本では、市民による放流や

給餌により、不自然なほどの生息密度になっている都市河川がよく見られ、飼育型の影響が危惧される。

天白川支流の植田川の全長9kmで20mごとに25ヶ所、電気ショッカーで調査をした。

確認された魚類は、遊泳魚類、底生魚類、甲殻類・水生昆虫である。コイの影響があったのは、底生魚類のヨシノボリ類、カマツカ、ナマズ、カムルチー。少しありはドジョウ。遊泳魚類では、カダヤシ、タモロコが少しあり。甲殻類であるエビ類、アメリカザリガニには影響なし。ヤゴに少しありであった。高密度では影響の恐れがあり、抑制が必要。



図1. オヤニラミ

まとめ

オヤニラミは、複数年継続して駆除することが必要だと話された。オヤニラミとオイカワの食性、ユスリカやカゲロウが重複する部分があり、競争的影響がある。ヨシノボリ、カワムツを捕食するので、在来魚類に負の影響の恐れがあるとのことでした。

コイの問題点としては、放流・給餌を規制する法律がない。人々のコイに対する親しみ。コイは”外来”という認識度が低い。一般的な図鑑への掲載(新学名、和名)が必要である。

講演会開催

はじめに

名古屋昆虫同好会では、毎年総会席上、各地の専門家を招いて講演会を開催しています。今年も、昨年に引き続き会員活動支援を活用させて頂き、以下の通り実施しました。

実施内容

● 丸山 宗利 氏 講演会

2019年1月13日(日)、名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)において、「アリの巣をめぐる冒険」と題して、丸山宗利(まるやまむねとし)氏に講演をして頂きました。

丸山氏は、静岡県生まれ、東京育ち。少年の頃から昆虫好きで、昆虫生息絶対数の少ない都会の環境で、虫の存在のありがたみを感じながら成長。北海道大学大学院農学研究科昆虫体系学教室で2003年博士号取得。国立科学博物館、アメリカ・シカゴのフィールド自然史博物館での研究員後、2008年九州大学総合研究博物館に着任。日本の他、世界各地に自ら出向き、昆虫調査を実施して多数の新種や新属を発見。「昆虫はすごい」(2014年光文社新書、ベストセラー)など著書も多数あります。現在、九州大学総合研究博物館准教授、専門分野はアリと共生する昆虫の多様性解明で、アジアの第一人者ですが、なによりNHKラジオ夏休み子ども科学電話相談に出演しており、その点でも著名な方です。

氏からは、アリの巣にはさまざまな昆虫が居候していて、それらの昆虫を好蟻性昆虫という。

実は身近なアリの巣にも、アリヅカオオロギなどのさまざまな好蟻性昆虫が暮らしている。そのことを初めて知った時にも驚いたのだが、アリの巣にアリとそっくりの形をした甲虫-ハネカクシのなかまがいると知ったときには、少なからぬ衝撃を覚えた。

約20年前、大学院で好蟻性昆虫の研究を始めたとき、日本には誰も専門家がおらず、新種発見の連続だった。ただ日本にはアリ型のハネカクシは

名古屋昆虫同好会 間野 隆裕

おらず憧れの存在となった。いつしか海外で調査をするようになり、ようやく出会ったときの感動は忘れられない。それからの12年間は、世界中をまわって、アリ型のハネカクシの調査を行った。

そしてその調査の様子を中心に、最近の研究の成果を紹介して頂きました。

当日は一般参加の人には先着順の事前申込制として120名の参加者があり、会場がほぼ一杯となり大盛況でした。



講演では、丸山氏の昆虫に対する情熱が随所に感じ取られ、参加した大人はもとより、虫好きの子供達にも観察のおもしろさや大切さなど、多くの事を学ぶ絶好の機会になりました。何よりも希少な昆虫のオンパレードで、日頃、目にすることが出来ない昆虫類の素晴らしい写真と共に、その生態を知る良い機会となりました。

毎年拝聴しているNHKラジオ夏休み子ども科学電話相談の裏情報も聞くことができるなど、大変楽しいものとなりました。

因みに公演後の懇親会も会場が一杯となる58名も集い、丸山氏から著書にサインをもらう子供達の姿も見られ、大いに盛り上がりました。

「中村公園ひょうたん池・太閤池」の環境保全事業

なごや生物多様性センター 高尾 知基

はじめに

名古屋市内でも由緒ある公園の一つである中村公園には、いくつかの池が散在しています。これまでも地元の方々を中心となって平成 22 年にひょうたん池、平成 26 年に太閤池の水を抜き、清掃活動が行われてきました。

今回は、公益財団法人名古屋中村法人会が名古屋市の後援を受け、水路でつながるひょうたん池と太閤池の水を同時に抜いて、清掃活動を行うこととなりました。名古屋市が後援する事業ということで、なごや生物多様性センターが池の中の生物の調査、保全、外来種の防除の観点から支援しました。

活動内容および調査結果

日時 10月7日（日）10:00～13:00

場所 名古屋市中村区 中村公園内
「ひょうたん池」及び「太閤池」

参加者

地元小中学生、名古屋中村法人会など約 100 名

● 活動内容

当日は、中村公園の指定管理者である岩間造園株式会社のご協力を得て、早朝から水を抜いた太閤池とひょうたん池に、親子 100 名以上の参加者が入って、池の中のイシガメ、スッポン、ナマズ、モツゴといった在来種や、ミシシippアカミミガメ、コイ、カダヤシなど多くの外来生物をたも網で捕獲するとともに、池の中を清掃しました。

池の中の清掃が一通り終わったあとは、なごや生物多様性保全活動協議会副会長である愛知学泉大学の矢部隆教授から、池でみつかった生物の解説をして、参加者に生物多様性の重要性を伝えていただきました。また、名古屋中村法人会青年部会からは、公園の施設管理に多くの税金が必要なことや、公共サービスの大切さを説明していただきました。

その後、捕獲した生物の調査を行い、在来種は水を戻した池に返しました。

当日捕獲された主な生物は表1のとおりです。

表 1. 捕獲された主な生物

ミシシippアカミミガメ	29	コイ（飼育型）	49
クサガメ	13	ヘラブナ	7
ニホンイシガメ	1	タモロコ	2
ニホンスッポン	3	アメリカザリガニ	2
ヨシノボリ類	+++	カダヤシ	+++
モツゴ	+++	スジエビ	+++

終わりに

当日は、親子で協力して捕獲したり、明るく話し合う姿もあちこちで見受けられ、生物の解説でも子供たちが積極的に発言するなど、本当に楽しく参加していただくことができました。

主催された名古屋中村法人会、参加された小中学生と地元の方々、公園を管理する岩間造園株式会社、学生ボランティアの皆さん、そしてご支援をいただいたなごや生物多様性保全活動協議会の皆様、誠にありがとうございました。



地域活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員以外の地域団体による、なごやの生物多様性の保全を目的とした活動についても、調査機材の貸出を行っております。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

平成30年度は、以下の活動について支援を行いました。

平成30年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
牧野ヶ池緑地保全協議会	牧野ヶ池移入種スイレン抜根調査
細口池生きもの復活クラブ	細口池の生きもの復活作戦
道徳学区連絡協議会「道徳池の会」	道徳公園 黎明池の保全活動

牧野ヶ池緑地の保全

(牧野ヶ池移入種スイレン抜根調査)

牧野ヶ池緑地保全協議会 巾 賢治

はじめに

2014 年以來、職務中にもかかわらず、牧野ヶ池緑地管理事務所職員や名東保健所職員の協力のおかげで作業効率が上がり、3カ所の完全除去と成果を上げ、最大面積の 8 番 (40m×60m) の除去作業にこぎつけることができました。

継続は力なりとは、このことだなとつくづく感じる。

調査結果

本年度は天候に恵まれ、範囲を広げることができ、除去した水面にはイヌタヌキモの再生がはっきりと確認できるようになってきた。



▲ 調査前



▲ 5・6月作業



▲ 11月 2018年度終了

牧野ヶ池緑地 生きもの (輪虫・昆虫・野鳥など) だより (11月)

緑地内の生き物の動向をお知らせして観力をお届けしようと思ひます。 撮影：巾 賢治

平成30年10月29日(月)11月5日(月)に外来スイレン抜根調査をしました。昨年引き続きの場所を作業しました。のべ20名ご協力ありがとうございました。岸近くまであったスイレンですが、数年で随分減らすことができました。在来種のガガブタが



見られるようになりました。来年度も引き続き予定しています。みなさまのご参加お待ちしております。



晩秋の生きものたち…



—センニンソウ(ワガガ科) 暑い夏〜9月に白い花を咲かせ、今は種になってます。山人の燃のような白い穂毛がみられます。名前の由来が一日燃然。有毒植物で別名「ウマクワズ」と言われています。



ツルウメモドキ(ウツギ科)→ 雄蜂実株。緑色の花は蜂に似ていない。ウメモドキに葉と実が似ているつる性の植物。黄色い実をつけた後、熟すと鮮やかな赤色の種子が散れる。野鳥により食べられ散布される。



—ニホヒツパチ(ミヅガキ科) 今では貴重な昆虫になりました。花が少なくなっても頑張っています。越冬中のミツパチは少し殺気立っているので刺されることがあるそう。葉の近くで刺さるようなことはしないでください。



ヒメクダマキモドキ(ウツギ科)→ 以前は見かけなかったのですが、近年よく見かけるようになりました。南方でみられた昆虫ですが温暖化?で北上中だそうです。卵で越冬します。



今年もたくさんやってきた…

オナガガモ、ヒドリガモその他オバン、カンムリカイツブリやヨシガモなど多種多数のカモたちがやってきています。種は冬に向けて派手な羽に変わっていく種が多いです。

近寄ってくることもありますが、自然の中の野鳥に餌を与えることは、生態系の保全に問題があります。

決して野鳥に餌を与えることはしないでください。

牧野ヶ池緑地保全協議会

12月は自然観察会は
お休みです。
12/16日(日)野鳥観察会
お持ちします

▲「生きものだより」より

まとめ

2019 年は 3 年目に入り、8 番は後、3 年かければ、絶やす見通しが立つと思う。作業が奥に進めていくに従い、水位が腰以上の深さになっていくため、池の水抜きなどの対策が必要となる。

細口池の生きもの復活作戦

はじめに

● ツバメのねぐら復活成る!

細口池生きもの復活クラブは、活動を始めて5年が経過しました。ヒメガマとヘドロの除去が進み、池面積の50%にヨシ原が再生しました。昨年7月末には、10年ぶりにツバメの大群が帰ってきました。8月には生きもの調査を多くの子どもたちと行い、捕獲した外来生物を除去しました。12月に5年間の活動と成果をまとめ報告会を行いました。



調査結果

調査及び保全作業は、毎月1回の定例活動と、若干名による随時活動と清掃を行いました。

● 定例活動 毎月第2土曜日 会員数15名

活動日	活動内容
4月14日	ヒメガマ根茎除去・ヨシ刈取り8人
5月12日	ヒメガマ根茎拔取り7人
6月9日	ヒメガマの根茎除去と刈取り8人
7月14日	生きもの観察6人
28~31日	ツバメねぐら入り観察21人
8月24日	カメわな・モンドリの設置、生物調査・
8月25日	解説及び特定外来種除去63人
9月8日	現場調査・ツバメと野鳥の調査10人
10月14日	ヒメガマの根茎除去・刈取り6人
11月10日	ヒメガマの根茎除去・刈取り10人
12月8日	ヒメガマの刈取り7人、報告会15人
1月12日	活動休止
2月9日	湧水か所の保全7人 計168名

● 随時活動 概ね60名

活動日	活動内容
4月1日~2月20日 (若干名でほぼ月2回)	ヒメガマの根茎除去・ヘドロの除去、ヒメガマの刈取り、根茎の片づけ、概ね20人
月2回(土曜日)	池内清掃、排水口清掃40名

細口池生きもの復活クラブ 代表 浅井 正明

● 生物調査結果 8/24・25に実施

調査は、カメわな、モンドリ、ガサガサを使って生きもの捕獲調査をしました。モクズガニの成体が2匹確認され、モツゴ、スジエビなど外来種は増加しましたが、一方コイ、カダヤシ、ウシガエル、アメリカザリガニが多数確認され、特定外来生物は処分しました。カメ類や他の魚類等は捕獲できませんでした。



● 6年間で確認された種

分類群	種名
魚類	ドジョウの仲間、フナの仲間、モツゴ、トウヨシノボリ、カダヤシ、コイ
甲殻類	モクズガニ、スジエビ、アメリカザリガニ、ミナミヌマエビ
は虫類	クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシッピアカミミガメ
両生類	ウシガエル(幼体多数、成体)
鳥類	バン、オオバン、アオサギ、コサギ、カルガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、コガモ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カイツブリ、ダイサギ、ヨシゴイ、カラヒリ、カワ
昆虫類	ヒメミズカマキリ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシカラトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、クロイトンボ、アジイトンボ

● 湧水か所の保全

湧水個所の泥を浚え、周囲に堤を築き良好な水質を保全することを進めました。

まとめ

5年間、ヒメガマとヘドロを除去した結果、ヨシの生育域と水域が著しく増進し、ヨシは池面積の50%、水面は40%を占めるまでになりました。今年こそはと期待したツバメのねぐら復活が7月下旬、10年ぶりに確認され、毎日1万羽にもなる大群がねぐら入りをしました。秋に入り次第に集団の数は減少しましたが、10月7日に最後の集団が確認されました。野鳥はオオバン、カイツブリ、コガモ、カルガモ、バンも多く見られ、観察者も多くなりました。今後、生きもの調査の精度を上げて生物多様性の向上を目指します。

道徳公園 黎明池の保全活動

道徳学区連絡協議会 「道徳池の会」会長 石原 久三

はじめに

道徳公園は、名古屋市南区の中でも古くからある公園でその中に「黎明池」という大きな池があり、地域の人々に親しまれてきました。

このたび、池の環境の改善を図るとともに、将来を担う子どもたちの学習の場とすることを目的に、黎明池の水を抜いて生物の調査や清掃を行う活動を企画し、道徳学区を挙げて実施することとなりました。

事業概要

日時 12月15日(土) 9:00～12:20

場所 名古屋市南区 道徳公園内「黎明池」

参加者 見学者含め約600名

● 活動内容

当日は、天気恵まれ風もなく、池干しを行うにはよい日となりました。開会式の後、なごや生物多様性センター職員から注意事項などの説明を受けた参加者が、黎明池の中に次々と入りました。前日までに南土木事務所の協力で水深20～30cmまで水を抜いた黎明池でしたが、思ったより底の泥が深く、参加者が足を取られる場面もありました。それでも最初は岸の付近をたも網で、中盤からは地引き網を使って池の生物を捕獲し、池のそばのビニールプールまで運んで調査、分類を行いました。



▲ 多くの参加者・見学者

池の中にいたのは、在来種のもつごやヨシノボリ類、スジエビやテナガエビ。また外来種のブルーギルやカダヤシなども捕獲されました。また、生きもの以外に空き缶などのごみも多く見つかり、除去しました。

池の中の生物の捕獲と清掃を終えた後、名城大学の谷口義則准教授から生物の解説とともに生物多様性の重要性を説明していただき、環境保全の意識を高めました。



▲ 谷口准教授による解説

池の中で見つかった生物は表1のとおりです。外来種は除去し、在来種はその日のうちに水を戻した池に返しました。

表1. 黎明池で見つかった生物

在来種	テナガエビ、スジエビ、コシアキトンボ、ミズカマキリ、ギンブナ、もつご、ヨシノボリ類
外来種	ゲンゴロウブナ、キンギョ、カダヤシ、ブルーギル

終わりに

実施にあたっては、半年以上前から学区連絡協議会に「道徳池の会」を立ち上げ、計画を進めてまいりました。その結果、当日は地元の小中学生とその保護者の方々はじめ高校生、大学生、地域の方々と、様々な世代のから約600人の参加者・見学者に来ていただき、事故もなく活動の目的を達成することができました。ご協力いただいた多くの方に御礼申し上げます。

助成金事業

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や新たに取り組みされる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりや新たな活動の創出を応援しています。

開始から4年目にあたる平成30年度は、8件の助成を行いました。

平成30年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
名古屋昆虫同好会	親子で楽しむ昆虫調査会
地球ハグ倶楽部	親子自然体験サポーター養成講座
愛知守山自然の会	小幡緑地にあるダム下湿地の木道の敷設とマメナシのポリネーター調査
東谷山湿地研究会	東谷山湿地ボーリングの報告書作成事業
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会	藤前干潟 生きものまつり
南山中・高等学校男子部 理科部生物班	名古屋市内及び近隣地域の生物相調査
愛知県立木曾川高等学校 総合実務部	地域の宝 国の天然記念物イタセンパラの保護
東邦高等学校 科学研究部	矢田川支流におけるブルーギル捕獲と透明標本の制作

次世代育成事業「親子で楽しむ昆虫調査会」

名古屋昆虫同好会 企画幹事 大野 康司

はじめに

名古屋昆虫同好会では、2015年から助成金を活用させていただいて、子供向けに「昆虫採集・標本作成教室」を毎年開催してまいりました。

2018年度は、より積極的に昆虫採集・標本作成を通じた自然環境保全をPRするため、親御さんにも参加していただく「親子で楽しむ昆虫調査会」を開催しました。

開催概要

今回「親子」ということでご案内しましたところ、41組83名もの皆様からご応募いただき、抽選の結果27組56名の方々にご参加いただきました。

特筆すべきは、女性の参加が多かったこと。女の子の参加が11名、お母さんも含めると女性が28名、全体の半数が女性という「今までにない」新鮮な風が吹きました。

● 第1回 猪高緑地公園 (6/9)

里山でよく見かける昆虫を求めて、猪高緑地公園で採集会を実施。雑木林では、樹液が滲む樹皮下に潜むコクワガタ、ネプトクワガタ、ノコギリクワガタなどを観察・採集。

● 第2回 旭高原 (8/4-5)

第二回は、旭高原で一泊二日の採集・標本作成会を実施。名古屋市内では見られない山地性の昆虫が多くみられ、夜は「ライトトラップ」を実施。お目当てのクワガタの飛来は少なかったが、それでも蛾、甲虫、セミ、ハチなど数多くの虫を目の当たりにし、親御さん子供たちも夜遅くまで熱心に観察・採集を続けていた。

● 第3回 標本作成・同定会 (8/18)

第三回は、夏休み期間中に各自で採集した昆虫の同定・標本作成会を、任意参加で実施。

22名の参加で、じっくりと標本に向き合い、少し突っ込んだ話（採集道具・標本作成道具にかかる専門店の案内など）ができたり、参加者同士の交流が深まったと思慮。

写真1. 猪高緑地公園 (6/9)



写真2. 旭高原でのライトトラップ



写真3. 標本作成・同定会 (8/18)



参加者からの評価と新規入会

ご参加のみなさんから、「非常に良かった」10組、「良かった」6組（それ以外なし）と高く評価。

この事業のお陰で、直近4年間の名古屋昆虫同好会の新規入会員数は64名となりました。

表1. 名古屋昆虫同好会 新規入会員数

2015年	2016年	2017年	2018年	計
5名	11名	21名	27名	64名

親子自然体験サポーター養成講座

地球ハグ倶楽部 代表 坂部 里咲／副代表 高松 一史

はじめに

地球ハグ倶楽部では愛知県名古屋市を拠点とし親子で楽しめる様々な自然体験イベントを企画・開催しています。

当会の合言葉は、美味しい・楽しい・美しい

1. 自然の恵みをとって食べる ”美味しい” 体験
 2. 自然の素材で作って遊ぶ ”楽しい” 体験
 3. 自然の神秘を五感で感じる ”美しい” 体験
- 三本柱として、自然の中で、親子で一緒に遊ぶ様々なイベントを開催しています。

活動内容

● 自然の神秘 光る石を見つけよう!!

今年も来ました。この海岸に…宮崎海岸
富山の空は晴天、海は風と絶好のコンディションです。講師のながたせんせいから、山でもないのに、なぜ海岸でヒスイが取れるのか?こんな解説から始まりました。雪どけした激流に河川の石が海に流れ込み、海から海岸に押し流され、波打ち際に打上げられることで、ヒスイや岩石が見つかります。

● ホタルイカの生態を学ぼう&見つけよう!!

ホタルイカと言えば夜の海に青く光るあの姿が思い浮かべますが 発光器というものを持っています。

- ・両腕の先に青く光る発光器を各3個
- ・目の周りに、大きな発光器が縦に並んで5個
- ・からだ全体に細かい発光器が1,000個

また、ホタルイカの寿命は1年で、春先に孵化したあと、日本海を回遊し、翌年の春先に産卵してその一生を終えます。

富山湾で獲れるホタルイカは99%がメスで、成長するに従って海の底深く(300M)に潜って生活しています。オスは、底でメスと交尾を終えると命を終えてしまいます。採集場所ではホタルイカやエビ、フグの観察をしました。「ホタルイカって、“キュウキュウ”と鳴くんだ!!」。子供達は大喜びです。

● 第30回あいち都市緑化フェア

ワークショップ「タネの花咲かせよう」世界の種をアートに! コーヒー、麦、アズキ、コショウなど使用しワークショップを開催しました。原産地など表示した地図に特徴などを記入し、食育シートも作成。また、パネルを展示し普及活動を行いました。



図1. せんせい これヒスイですか?



図2. 勇ましい三人の勇者たち

まとめ(参加者人数)

助成金を活用し、多くの方に当会を周知出来たことで、その後のイベントでもなごや生物多様センター様に多くの方がお越し頂く機会になりました。

開催日	4/20, 21	4/29
人数	29	143

表1. 参加者人数

小幡緑地 ダム下湿地の木道敷設とマメナシのポリネーター調査

愛知守山自然の会 石原 則義

はじめに

湿地は、人が踏み込めば壊れてしまうような微妙なバランスの上に成り立つ弱い自然です。湿地には、弱酸性の湧水が常に流れています。湿地内は、栄養分が少ないことが条件として必要です。また、湿地の植物は、日差しを好みます。そのいずれかのバランスが崩れると、湿地は、森へと変化を始め、やがてそこにすむ生き物も姿を消していきます。これらの生き物を保護するためには、湿地の環境を壊さないようにすることが大切です。

木道をつくることは、湿地への踏圧を防ぐことになります。木のぬくもりを感じ、出来上がる喜びを共感できる作業でもあります。

せせらぎ湿地の近くにダム下湿地（20m×20m）があります。湿地には、シラタマホシクサ、スイラン、ホザキノミカキグサ、ノカンゾウが見られます。木道を1周し、何処からでも、湿生植物が観察できるように観察路をつくりました。

ポリネーターとは、植物の花粉を運ぶ動物。蜜や花粉を求めて花を訪れ、植物の受粉の仲介をする昆虫類、鳥類など。マメナシの開花の時期に花粉を媒介する昆虫類を調べました。

調査結果

● 木道の作り方の作業順序

- ① 板材と横木を使い、樹脂杭を打ちこむ場所を、確定します。横木2本に、ボルトにワッシャーをつけ穴に通します。通したらワッシャーとナットをつけ、手でナットを締めます。この作業は予め準備しておきます。
- ② 掛矢を用いて、樹脂杭1本ずつを、周りの樹脂杭の高さまで、地中に打ち込みます。
- ③ 板材を横木の上に乗せ、水平を水準器で調整し、ボルトを仮締めします。調整が終わったら横木2本のボルト4本をレンチで締めつけます。
- ④ 電動ドリル刃で、板材にある程度の穴を開けま

す。次に、電動ビットで、板材と横木をビスでねじ込み緊結します。



図1. 木道の完成



図2. キョウコシマハナアブ

● マメナシのポリネーター

小幡緑地公園（名古屋市守山区）、小牧市大草、桑名市多度のマメナシ自生地3箇所で、3月末から4月上旬の開花時期に花を訪れる昆虫（送粉者）の調査を行いました。

まとめ

木道については、図1にあるようにダム下湿地を1周できる木道を敷設しました。より近くで湿地の生物の生態が観察できるようになりました。

昆虫にはさまざまな訪花性の種がいます。特定の植物と結びつき、その花を訪れるものから、多くの種の花を訪れ、花粉を運ぶものまでいろいろな利用形態があります。

マメナシ開花期に確認された訪花性昆虫は、ヤヨヒメハナバチ、ピロウドツリアブ、ホソヒメヒラタアブ、キョウコシマハナアブ、オオハナアブ、アシフトハナアブなどがいました。

東谷山南西湿地ボーリングの報告書作成事業

(東谷山湿地ボーリングの報告書作成事業)

東谷山湿地研究会 石原 則義

はじめに

ボーリング調査に先立って、2017年2月17日、ボーリング地点をどの場所に設定したら良いか予備調査を行った。この調査の過程で、東谷山湿地に谷地形が存在することが明らかになった。

ボーリング調査は、2017年5月23～24日の2日間をかけて実施された。23日は、より深いところまで試料採取するには、どこで本ボーリングするのが良いか調べるため、エイト日本技術開発の協力を得て、湿地全域の測量を実施した。次に、測量作業の結果得られた谷地形内の2測線(A測線およびC測線)上の計9地点について、手動簡易貫入試験と小型動的貫入試験機(PENNY式貫入試験機)を用いて地下探査を試み、軟弱な地層が最も深くまで存在するC-4地点を本ボーリング地点と定め、翌24日にボーリング調査を実施した。本ボーリングが行われたC-4地点の緯度経度は、北緯35°20'、東経137°04'である。

C-4地点では、およそ1ないし1.5mの間隔において、計4本のボーリング試料が採取された。各種分析に用いられたボーリング試料は、TGSW-1(No.1ボーリング試料)およびTGSW-2(No.2ボーリング試料)の2試料である。TGSW-1およびTGSW-2の掘削深度は、それぞれ235cmと245cmである。両ボーリング試料とも、最上部30cmは水分が多い泥炭層のため機械ボーリングでは採取が難しく、富田啓介(愛知学院大学)が持参したハンドオーガーおよび森勇一所有のボーリング・ステッキによる採取試料にて補完した。

活動結果

ボーリング試料の切り分け作業と各種分析試料の採取は、東谷山フルーツパーク会議室を借用し、同年6月18日に実施した。この日、採取されたボーリング試料の層相の観察と、柱状図作成作業が同時に行われた。

層相観察と柱状図作成は、田中里志(京都教育大学)・宇佐美徹(愛知県立杏和高校)・居川信之らが行った。ボーリング試料中より年代測定用サンプルの採取にあたったのは中村俊夫(名古屋大学)、花粉分析用試料は兵藤みのり(名城大学)・斎藤毅(同)、昆虫分析用試料は浅野雄太(名城大学)と森勇一、珪藻分析用試料は宇佐美徹、化学分析用試料採取は吉田耕治(金城学院大学)が分

担した。ボーリング試料から得られた各種分析結果の報告会は、2018年2月17日、東谷山フルーツパーク学習室にて実施した。



図1. 報告書表紙絵

まとめ

以上の経過ののち、研究成果の刊行が計画され、2018年8月末日を期限に原稿締め切りを伝え、原稿の集約と編集作業が実施された。編集作業の実務にあたったのは、森勇一と小野知洋(金城学院大学)である。

東谷山南西湿地ボーリングの報告書作成事業の一環として、2018年12月の定例会で、森勇一から、「テーマ：見所いっぱい 東谷山一湿地成立は、いつから？ 地質の多様性名古屋で一番の東谷山。湿地をボーリングすると弥生時代の虫が！ 卑弥呼の時代、東谷山に土石流？」と題して講演をいただいた。

藤前干潟 生きものまつり

はじめに

NPO 法人藤前干潟を守る会は、藤前干潟を名古屋市のごみ処分場建設計画から守るために、1987年に活動を開始しました。その後、1999年の計画中止および保全確定を経て、2002年のラムサール条約登録を期に、2003年にNPO法人格を取得しました。現在は、藤前干潟の保全の歴史。そこに見える環境保全のメッセージを多くの人に伝え、藤前干潟とその流域、生物多様性を保全する活動を展開しています。

「生きものまつり」は、より多くの人たちに藤前干潟の魅力と生きものにふれることの楽しさを伝えるために、任意団体として活動している頃から実施しています。干潟での観察会の他、ライブや展示、様々な団体によるブース出展など、いろいろな催しが行われています。

活動の成果

生きものまつりは、1年で最も潮の良い時期である4月下旬～5月上旬の大潮の日に実施しています。2018年は4月29日に実施しました。今年は、例年実施している「干潟観察会」、「石ころ干潟観察会」に加え、いくつかの新しい試みを取り入れました。



▲ 干潟観察会の様子

プロカメラマンの戸塚学さんによる「野鳥撮影講座」や、プロバードウォッチャーの♪鳥くんによる「バードウォッチング講座」など、野鳥プログラムを充実。



▲ バードウォッチング講座の様子

NPO法人藤前干潟を守る会 戸塚 辰弥

さらに、ライブも、これまでご出演いただいた「尾張新次郎太鼓」に加えて「♪鳥くん& ThePIPITZ with 劇団シンデレラ」によるコラボライブを実施しました。



▲ ライブの様子

また、展示では土岐川観察館の出張展示「庄内川・土岐川の中上流域の生きもの」に加え、戸塚学さんの「ライチョウ写真展」を実施。

ブース出展では、例年おなじみの豊田市自然観察の森による展示とワークショップ、毎年人気の「土岐川・庄内川の源流の森委員会」の間伐材を使った「my 箸作り」、アンバーアーティストのマイケル・クツさんによる「琥珀磨き」、「藤前干潟ふれあい事業」の一環として、ガタレンジャーJr.による「ダイゼンのペーパーキャップ作り」。これらに加え、新しく聖カピタニオ女子高等学校から「ゼリーキャンドル作り」のワークショップと、南陽高校 Nanyo Company 部からフェアトレード商品の販売を実施していただきました。また、毎年出展の名古屋市野鳥観察館からは、展示に加えて「コアジサシ・デコイの色塗りワークショップ」が行われました。

このように新しいプログラムが増えたこともあり、例年以上に来場者の多い生きものまつりになりました。来年も、また新たな試みに挑戦しつつ、さらに充実した内容で実施していきたいと考えています。まだ、藤前干潟に足を運んだことのない方は、ぜひ、ご参加ください。

地域の宝 国の天然記念物イタセンパラの保護

愛知県立木曽川高等学校 総合実務部顧問 堀場 弘市

はじめに

イタセンパラ（板鮮腹）は、1974年に国の天然記念物に指定された淡水魚であり、現在は、富山平野・大阪平野（淀川）・濃尾平野（木曽川）の三カ所の一部にしか生息していない。

私たちは、「国の天然記念物 木曽川のイタセンパラを地域の宝に」を合言葉に、高校生の私たちにできる3つの活動内容を考え、2015年3月に活動を始めた。

● 保護につながる活動の3本柱

- ① イタセンパラの調査・研究と学習会への参加
- ② アンケート調査、学習会や各種大会でのプレゼンテーション等による広報活動
- ③ 生息地である木曽川のワンドやたまりの保全活動（周辺の除草・清掃活動）

活動内容と結果

● 1本目の柱：調査・研究と学習会への参加

環境省やイタセンパラ保護連絡協議会等の団体が主催するイタセンパラ学習会や研究会に参加し、知識を深めることができた。

- ・富山県氷見市の万尾川で捕獲調査。
- ・国土交通省主催の木曽川人工ワンドの二枚貝調査に参加。二枚貝の殻を採集し、ヌートリアによる捕食被害の状況を調査。



図1. 万尾川での調査

- ・富山県氷見市のひみラボ水族館、大阪市の城北ワンド、大阪府寝屋川市の水生生物センター、滋賀県琵琶湖博物館、岐阜県水産研究所、アクア・トトぎふ、東山動植物園めだか館、碧南海浜水族館等の視察と学習会への参加。

● 2本目の柱：認知度を高めるための広報活動

アンケート調査により、地域別、年齢別、性別のイタセンパラに関する認知度を把握。若い世代（小学生）への広報活動のための道具と

して「イタセンパラかるた」を制作し、小学校や児童館等でかるた大会を開催。

また、環境省主催のイタセンパラ学習会や日本魚類学会や日本生物教育学会主催の大会や発表会で本校のイタセンパラの保護につながる活動を紹介することで認知度を高めた。

● 3本目の柱：ワンドやたまりの保全活動

総合実務部では、イタセンパラの生息地である木曽川の人工ワンドの周辺の除草・清掃活動を月に一回実施。また、昨年度と今年度は、5月に全校生徒に対してボランティアを募集して保全活動を実施。（平成29年度43名、平成30年度は55名が参加）



図2. 校内ボランティアによるワンドの保全活動

まとめ

私たちの生活を豊かにするためにおこなわれた河川の治水工事や河岸の改修が、イタセンパラの生息地を減少させた。人々の生活様式の変化によって、川とのかかわりが減少し、水質汚濁、ワンド周辺の砂地の減少、ゴミやヘドロの増加等を招き、生息環境を悪化させてしまった。また、外来生物による捕食被害や密猟による個体数の減少も大きな問題となっている。

これらの問題に対して、「保護につながる活動の3本柱」を継続させながら、私たちにできる活動を新たに考え、地域の方と連携してイタセンパラを保護していきたい。また、来年度はイタセンパラかるたを改良し、子どもたちに向けた広報活動をさらに工夫していく。

東邦高校周辺におけるブルーギル捕獲と透明標本制作

(矢田川支流におけるブルーギル捕獲と透明標本の制作)

東邦高等学校 科学研究部顧問 平川 史子

はじめに

学校近くの川、池でブルーギル捕獲を行い、それを用いて透明標本の制作を行っています。標本制作の過程でブルーギルは胃の周辺に黄色のシミが見られるのに対し、オオクチバスは全身キレイなシミのない標本ができることに気が付きました。また、活動初期では大森学童保育所近くの隅除川で釣りをしていましたが、ここ1年釣れなくなり、猫が洞池や庄内川など新しい釣り場を探して捕獲活動を続けました。釣り場によってブルーギルの体長が異なることがわかりました。高校数学現行課程で1年時に履修する「データの分析」で習った箱ひげ図などを利用して結果をまとめています。

調査結果

● 標本に見られる黄色のシミの正体

今までに失敗したのも含め63体のブルーギル標本を制作してきましたが、すべてに局所的な黄色のシミが表れます(写真1上)。胃の周辺に表れるので胃の残留物の影響と考えています。

写真1上.ブルーギル
写真1下.オオクチバス



一方オオクチバスでは局所的なシミはなく、全身透明感のある美しい標本ができました(写真1下)。しかし、半年後全身が黄色に変色してしまいました。これは全身の脂肪が酸化したためでブルーギルのシミとは原因が異なるのではないかと考えています。

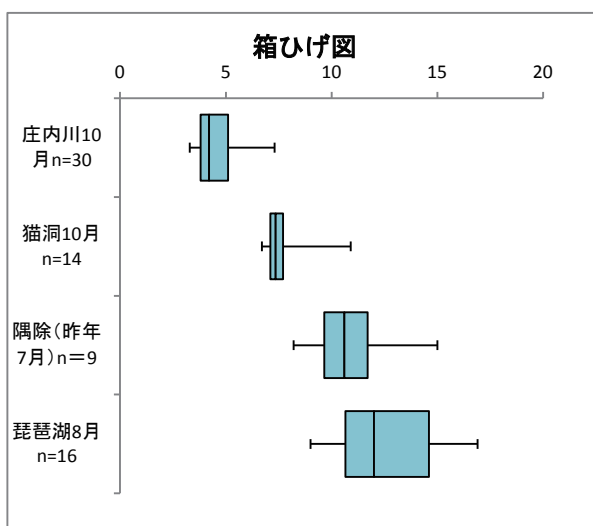
標本制作という観点では、年月が経過してもあまり変化しないブルーギルの方が適しているというのが

私たちの感想です。が、「食用」という面では、釣った直後に全身キレイなオオクチバスの方が適しているのでは・・・?という予想をしています。(試食はしていませんが・・・笑)

● 釣り場によって異なるブルーギルの大きさ

今まで釣りをしたのは、隅除川、猫が洞池、琵琶湖、庄内川ですが、釣り場によって体長も高さも異なります。特に庄内川の釣りスポットでは極端に小さいブルーギルばかり獲れるので、産卵場所ということが予想されます。

箱ひげ図や散布図を用いたデータ分析は、生徒たちにとっては、数学授業で習ったばかりとのこともあり、新鮮な気持ちで取り組んでいるようです。透明標本を制作するにはかなりの根気と経験、試行錯誤が必要ですが、データ分析なら誰でもできて、箱ひげ図を眺めながら考えたり、仲間と議論したりと気軽にできるところがよいです。まだデータ数が少ないので、考察はできていませんが、釣った場所が同じであれば共通点の多い箱ひげ図ができることまではわかりました。



まとめ

● 今年度までの成果を数字にすると・・・

本テーマの研究を始めて 3 年になります。今までの成果は以下の通りです。

2016 年～2018 年に釣った（駆除）外来魚の数

種類	場所	個体数
ブルーギル	隈除川	83
	猫洞池	25
	庄内川	42
	琵琶湖高島市	22
オオクチバス	隈除川	3

2016 年～2018 年 成功した標本の個数

種類	個数
ブルーギル	33体
オオクチバス	1体

2018 年度の最も大きな成果は、庄内川で小さいブルーギルが生息する場所を発見したことです。体長 3 センチ程度で、薬品のしみこみが均一なため 2 週間程度で全工程が終了します。まだ背骨が完成していないのか、染料（アリザリンレッド）がうつすらとしています（写真 2）。しかし見た目は美しく科学三昧 in あいちでは高校生に人気でした。制作過程での失敗も少ないので、新 1 年生に作らせてみようと考えています。

写真 2. 庄内川の小さいブルーギル



● 今後に向けて・・・

2018 年度は数学で習った「データ分析」を実際に活用した点も前進した点だと思います。今までは標本作りのために釣りに行くだけだったのが、一回一回の釣りがデータの蓄積になり、場所や時期による変化を読み取ったり、みんなで意見を言い合ったりする面白さがわかったからです。この調査は始めたばかりですが、次年度はブルーギルの体長だけでなく、高さや厚みなども測り、コツコツデータを積み重ねたいと思っています。そして何らかの考察ができたらと思っています。みなさまのご助言・アドバイスを今後ともよろしくお願いたします。

一方、ブルーギル標本に見られる黄色のシミについてはまだ解決の糸口がつかめていません。

写真 3. うろこ取りの作業



最後に、部員が初めて在来生物のドンコ、ヌマチチブを琵琶湖で釣りました。高さがなくツルンとした形で、ブルーギルのような硬いひれもなく、「大きい魚のえさになるのは在来の魚だね」と生徒たち。これからも釣りを楽しみながら、学校周辺の池・川の様子を定点観察して関心を持ち続けたいと思います。

相生山緑地自然観察会

団体の目的・主な活動内容

- 目的
自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え守ることを目的とする。
- 活動
 - ・観察会
 - ・調査・保全・保護活動
 - ・ガイドブック・冊子などの企画・執筆
 - ・なごや生物多様性センター、天白区役所
他パートナーシップ事業
 - ・他団体との情報交換など



▲ヒメボタル (オス)

平成 30 年度の活動について

- 観察会：四季折々の植物・昆虫・鳥などをテーマに実施
 - 3/25(日) バタフライガーデンの植栽管理
 - 5/18(金) そっと観察しよう～ヒメボタル
 - 5/20(日) ヒメボタルを観察しよう
 - 5/27(日) 自然発見ゲームとバタフライガーデンの手入れ
 - 8/5(日) 葉っぱの標本づくり & 葉っぱを食す
 - 10/20(土) 旅をするチョウ “アサギマダラのマーキングをしよう”
 - 10/28(日) 天白区民まつり
- その他
 - 3/31 愛知県内のヒメボタ生息地の報告書及びリーフレット完成、関係機関に配布
※ヒメボタルサミット in 愛知実行委員会、コアメンバーとして作成
 - 8/31、9/1 なごや生きもの一斉調査～アリ編～ 瑞穂公園、相生山緑地にて調査 主催：なごや生物多様性保全活動協議会

連携：天白もり・フォーラム
主催：天白生涯学習センター
主催：名古屋市環境推進室
主催：なごや生物多様性保全活動協議会
＝天候不良により訪花植物開花せず中止＝
主催：天白区役所

団体の情報 主な活動場所 相生山緑地オアシスの森 (名古屋市天白区)

相生山緑地自然観察会

TEL/FAX：(052) 822-7460 E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp

ブログ：<http://ngyaioi.blogspot.jp/>

■例会の予定：定例観察その他 ヒメボタル、アサギマダラなどをテーマに観察会実施

「あいちの海」グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

目の前にある三河湾と伊勢湾という素晴らしい海の魅力を町の人や地元の人に知ってもらうこと。

平成 30 年度の活動について

- ① 5月12日(土) ヨットで佐久島へ!
河和港からヨットで佐久島へ行きました。河和と佐久島の間で世界最小のイルカ、スナメリを見ることが出来ました。佐久島では、愛知みずほ大学の川瀬基弘先生の指導のもとで、何種類もの海の生物の化石を見つけてことが出来ました。
- ② 5月14日(月)
南知多町立大井小学校4～6年生の地域の学習の授業担当。
- ③ 6月12日(火)
南知多町立師崎小学校全員を対象とした磯の観察会手伝い。
- ④ 6月12日午後 南知多町大井港でクサフグの集団産卵観察会
南知多町環境課・知多自然観察会と共催。
- ⑤ 8月6日18:00～ ウミホタルとアカテガニ放逐観察会(聖崎)
南知多町環境課・知多自然観察会と共催。
- ⑥ 8月11日(土) なごや生物多様性サマースクール
「チリメンモンスターをさがせ！」を南知多町大井公民館で開催。
名古屋から約30名、地元師崎中学校から数名参加。
- ⑦ ウミウシ・貝類調査(南知多町長谷崎・聖崎と佐久島)
4月1日～11月27日まで十数回開催。
調査結果は、2019年度に論文として発表予定。
- ⑧ チリメンモンスターをさがせ!
瑞穂区汐路小学校トワイライトで、秋～冬に月1回開催
- ⑨ 南知多町大井・片名地区の昔の様子聞き取り調査
夏休みを中心に聞き取り調査を実施。聞き取り者は師崎中学校生徒。1月21日に師崎中学校で成果発表。



団体の情報 主な活動場所 三河湾 南知多町 名古屋市

「あいちの海」グリーンマップ

TEL/FAX：(052) 841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp ウェブサイト：<http://www1.m1.mediacat.ne.jp/aichisea/>

■例会の予定：不定期(ウェブサイトを確かめ下さい)

愛知守山自然の会

団体の目的・主な活動内容

平成16年から守山区の小幡緑地本園を拠り所として、より良い自然環境の保全と保護を目的に ①一般参加者向けの自然観察会の実施 ②せせらぎ湿地の保全・保護 ③マメナシなどの希少生物の保全 ④研修や各種イベントの参加など、楽しみながら活動をしているボランティア団体です。

全国トンボ市民サミット、県内の湿地サミット、三重県桑名市多度町八壺谷でのマメナシ保全に参加しています。

日常的には、守山自然ふれあいスクール実行委員会、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会、なごや生物多様性保全活動協議会の行事に積極的に参加しています。

平成30年度の活動について

- 4月：マメナシの春の観察会の応援（蛭池）
- 4月：「マメナシの花の送紛者」自主研修会企画
- 5月：田原市ナガボナツハゼ保全（福江高校裏山）応援
- 5月：国土交通大臣賞（みどりの愛護）受賞式に参加
- 6月：湿地サミット in 新城に参加
- 10月：なごや生物多様性センターまつりに出展
- 11月：マメナシサミット in 守山に参加
- 12月：「植生から自然を知る」自主研修会企画
- 1月：「小幡緑地周辺の地学巡検」自主研修会企画



▲守山区蛭池 実生探し(4月)



▲田原市ナガボナツハゼ保全(5月)

団体の情報

主な活動場所 小幡緑地本園内 せせらぎ湿地・マメナシ自生地

愛知守山自然の会

TEL/FAX：(052) 711-3087 E-mail：norimameobata@yahoo.co.jp

■例会の予定

【自然観察会】毎月第2土曜日 10:00～11:45（小幡緑地本園トンボの時計台前 9:45 集合）

【保全活動日】毎月第2水曜日・第4日曜日 10:00～12:00（小幡緑地本園内〈せせらぎ湿地・マメナシ自生地〉）

雨池ホタルの会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で1000番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。平成10年5月末、会員の1人が雨池の外周道路を犬と散歩中に偶然ホタルを見つけました。その後、多くの人々が輝くように光る自然の神秘に心を動かされ、雨池周辺のホタル生息地の保全に立ち上がりました。

「守山自然ふれあいスクール」検討部会にスタッフ参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、池の浮遊物の撤去、草刈り、花壇作りなど、豊かな自然環境が育まれるように活動しています。

平成30年度の活動について

- ・毎月第1金曜日午後8時から1時間ほど、大森交番前に集まって雨池公園と地域の防犯パトロールを行いました。
- ・毎月第2及び第4土曜日は雨池公園周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。
- ・5月19日（土）のヒメボタル観察会は肌寒い夜になりましたが50名の参加者がありました。大森北小学校の校庭に集まってヒメボタルに関するスライドを使った話を聞き、ホタルクイズにも挑戦しました。その後、雨池周辺の2か所でヒメボタルの観察を行いました。多くの飛翔が観察出来、子供たちの喜ぶ顔が印象的でした。
- ・8月18日（土）に総勢66名の参加者で毎夏休み恒例の「夏だ！元気にあそぼう」（魚釣り、虫取り、スイカ割りなど）を行い、地域の子供たちと交流を深めることが出来ました。
- ・3月2日（土）には学区子ども会連合会や大森北小学校PTAと共催で「もちつき大会」を行い、200名を超える参加者がありました。



▲夏だ！元気にあそぼう

団体の情報

主な活動場所 名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホタルの会

TEL：(052) 792-0022 E-mail：rei-hirose@gaea.ocn.ne.jp

■例会の予定：毎月第2及び第4土曜日、午前10時から

荒池ふるさとクラブ

団体の目的・主な活動内容

荒池ふるさとクラブは、平成16年から荒池緑地で保全活動を行っています。

活動目的は、名古屋市と地域との協働で策定された「荒池なごやかファーム構想」の趣旨に賛同し、荒池緑地を次世代に引き継ぎ、生物多様性を保全し、自然との共生を目指します。

活動内容は下記のとおりです。

- ・自然観察（植物・昆虫・野鳥・水辺の生き物など）
- ・竹林、雑木林の整備
- ・水田、畑の耕作、果樹園管理
- ・間伐竹の炭焼き
- ・竹を利用した、竹工作、各種イベントへの参加



▲田植え

平成30年度の活動について

緑地の整備（竹林・雑木林）と水田での稲作を中心に里山の風景の復元を目指した活動を行いました。

主な月別活動は、4月に植物観察会、5月に田植え、5月・12月・1月に、天白土木事務所と農業センターとの共催で、笛・ミニ門松作り・果樹の収穫体験を、一般公募した市民と協働で実施、7月には天白消防署の協力による安全講習会の開催。水田関係では、8月に案山子づくり、10月に天白区役所の「天白・自然とふれあい隊」で稲刈りを、12月の収穫祭で餅つき大会を開催しました。10月には5月に植え付けしたサツマイモの芋ほり、11月・3月には二つ池エリアの森づくりとして植樹整備、10月・11月に天白区民まつり・農業センターまつりのイベントに竹細工で参加。年間を通じ竹林と雑木林の整備を行っています。

団体の情報

主な活動場所 荒池緑地

荒池ふるさとクラブ

TEL：(052) 801-6993 E-mail：sanupi2@khf.biglobe.ne.jp

ウェブサイト：<http://www.geocities.jp/araikefurusato/> 《[荒池ふるさとクラブ] で検索》

■例会の予定：第2土曜日・第3日曜日・第4土曜日

活動時間：10:00～15:00 / 集合場所：農業センター指導館ロビー

伊勢・三河湾流域ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

当会が設立当時に訴えたことは、「伊勢・三河湾の流域」という生態的まとまり(Bioregion)の価値が認識されず、省庁割、地域割の思考と施策でバラバラに管理され、痛めつけられてきたことを指摘できるのは市民団体ではないか。それに気づいた私たちが率先してささやかながらアクションを起こそうという呼びかけでした。伊勢・三河湾流域の「保全」と「再生」につながる提案とその活動推進を図り、豊かな海とその流域の「自然と暮らし」を市民の手に取り戻すことを目的としています。その際「流域」とは内湾とその集水域の全体であり、ひとまとまりの生態系ととらえ、この生態系の価値を高めることをベースに置いた統合政策を模索します。

平成30年度の活動について

2019年2月3日、伊勢湾流域圏の再生シンポジウム、Vol. 4、テーマ「生物多様性に配慮した持続可能な生産と消費」（野生生物保全論研究会、伊勢湾流域圏再生シンポジウム実行委員会共催）が行われました。当会は伊勢湾流域圏に所在する6つの市民団体の共催で毎年1回行われてきた、本連続シンポジウム企画と準備をずっと担ってきました。第1回は2016年1月31日に四日市で行われ、以後毎年、名古屋、豊橋と開催場所を変えながら今回4回目が岐阜市で行われました。連続シンポの一貫した趣旨は、2010年に名古屋で行われた生物多様性条約第10回締約国会議COP10で採択された「愛知目標」の達成期間が10年間と定められている中、国際条約と地域のかかわりを流域圏という規模で考え、地域からの提案を発信していこうとするものです。平成30年度の後半はこの準備作業を進めました。

シンポ当日は当会代表の高山による基調講演「生物多様性の主流化」を物差しに考える地域の現状、日本の現状によって「愛知目標」の最も重要な提言である「生物多様性の主流化」が日本においては実現していないことを、日本、アメリカ、イタリアの地域の事例を紹介することにより述べた後、伊勢湾流域圏の現場で活動されている3人の方の魅力的なお話を受け、議論が行われました。結果的には参加者が約90名、アンケートを提出した28名全員が「良かった」と答えられ、翌朝の中日新聞にも好意的な記事が掲載されました。



団体の情報

主な活動場所 伊勢・三河湾流域圏

伊勢・三河湾流域ネットワーク

E-mail：office@isemikawa.net ウェブサイト：<http://www.isemikawa.net/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動を行う前は、毎月1回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出ていた事と、水がしみ出しているところに東海地方固有の植物、トウカイコモウセンゴケやシラタマホシクサが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は2000年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得る話し合いを行いました。2001年9月に県から許可が下り、2002年から活動に入りました。

平成30年度の活動について

現在の活動内容(右表)は、毎月第二日曜日9時から11時30分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための、草刈り・落ち葉掻きがメインです。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。その他、名古屋市レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のアズマヒキガエルの卵とオタマジャクシの保護と、外来種のアメリカザリガニ・ウシガエルの駆除及びトンボのヤゴ調査と保護を行っています。



【主な活動内容】

1月	里山植物群落の落ち葉掻き
2月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
3月	湿地上部・誘導路の草刈り
4月	冬鳥の餌場の草刈り
5月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6月	中央湿地の草刈り
7月	たまり池・導水路周囲の草刈り
8月	池のアシ刈り
9月	里山植物群落の草刈り
10月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12月	中央池の泥上げ

団体の情報

主な活動場所 大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会 (代表: 大主順一)

TEL: (052) 413-4435 E-mail: yoka1115@violet.plala.or.jp

■例会の予定: 無し

尾張サンショウウオ研究会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市内のカスミサンショウウオの水辺環境の整備と保全。この地方のカスミサンショウウオの保全について調査と協力体制をつくる。また情報の共有をする。カスミサンショウウオ以外にも、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルの保全にも取り組んでいる。

平成30年度の活動について

繁殖シーズン前に産卵地の整備と、産卵期を過ぎたあたりに一斉調査を行なった。一斉調査ができない地域は各地で行なっている方々と情報共有し、名古屋市内のカスミサンショウウオの生息状況の把握に努めた。その他、危機的な状況にあるアズマヒキガエルの産卵状況も把握し、遺伝的多様の把握も視野に入れながら調査を行なった。

活動人数約9人



団体の情報

主な活動場所 名古屋市内全域

尾張サンショウウオ研究会

TEL/FAX: (052) 781-2595 (瀧川正子)

E-mail: fwie6142@mb.infoweb.ne.jp (藤谷武史)
takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp (瀧川正子)

■例会の予定: 不定期

かんでらmonzen亭「笠寺ミツバチプロジェクト」

団体の目的・主な活動内容

笠寺まちづくり団体「かんでら monzen 亭」の活動の一つ。笠寺観音商店街屋上にて西洋ミツバチの飼育を行い、商店街活性化の他、ミツバチの育つ安全な環境づくりをテーマに、無農薬の花や野菜づくりの事業も推進する取り組み。平成 25 年より正式にプロジェクトを開始、ミツバチの飼育応援団と花づくり応援団を構成し、ミツバチを通じた環境教育講座を執り行い地域活性化事業を継続中。

平成 30 年度の活動について

季節に準じたミツバチ育ての内検作業とともに、採蜜や蜜ろう採取など、商店街活性化の地域資源として活用の計画に基づき、まちで採れたハチミツのほかにも、みつばち食堂の無農薬畑で育てたらっきょうを、はちみつ漬けにした商品も作成、28 年度に販売開始。環境づくりにおいては、ミツバチの環境における役割や共存などをテーマにワークショップを、地域の老人会や子供会など出張ミニ講座を開催。笠寺観音手作りマルシェかんのんひろばでは、ミツバチ寄せ植え講座など地域の人々との交流を深めた。

28 年度から開催した、みつばち手仕事部は、毎月一回笠寺観音お茶所にて、花苗づくりや収穫種の仕分け梱包作業を定期開催中。みつばち食堂として、ミツバチのための花畑づくりも毎月活動中。



団体の情報

主な活動場所 笠寺観音商店街界隈を中心とした地域

かんでら monzen 亭「笠寺ミツバチプロジェクト」

TEL : (052) 822-0885 FAX : (052) 822-5466 E-mail : kasadera@minamix.net

ウェブサイト : <http://machiwiki.sakura.ne.jp/> ご参加問合せ先 : 090-4166-5001 近藤

■例会の予定 : かんでら monzen 亭 - 毎月第 2 土曜日 9 時 ~ 11 時 / ミツバチプロジェクト養蜂部 - 毎週 1 回午前 (季節に準じて回数や集合時間が変わります) / 花手仕事部 - 第一月曜午前 10 時から 11 時半開催 / みつばち食堂作業第三火曜日午前 10 時半 ~ 11 時 45 分

雑木林研究会

団体の目的・主な活動内容

◆目的

人間と自然のよりよい関係が模索されている中、雑木林 (里山林) を一つのモデルとして取り上げ、フィールドをめぐりながらその役割を解明し、今日の価値を探求することによって、両者の新たな共生関係を見出す。そして、かつての役割を失い、放置されつつある雑木林の新たな活用法を探る。

◆主な活動内容

オープンセミナー、研究会、フィールドワーク、研修ツアー、協働参画活動など。

◆これまでの主な活動テーマ

子どもと雑木林 (雑木林の教育力・木育)、アートと雑木林 (雑木林の創造力・グリーンウッドワーク)、公園空間としての雑木林、ヒーリング空間としての雑木林 (雑木林の治癒力)、住民参加・協働の場としての雑木林、里山保全活動と市民講座、里山型公園緑地のマネジメント、里山林と木質バイオマスエネルギー、里山林の水源涵養機能と雨水利用、里山林と木工芸・民芸、雑木林と竹林の管理・利用など

平成 30 年度の活動について

●オープンセミナー「今、里山資源を再活用する里山工芸 - 荒れた竹林に光を」2018/3/10

●協働参画活動「アチェメックの森ワークショップ」あいち小児保健医療総合センター内樹林地
2018/04/22・07/22・10/21・12/23



▲オープンセミナー
「今、里山資源を再活用する里山工芸 - 荒れた竹林に光を」
2018/3/10 拳母ルーテル幼稚園ホール



▲ワークショップ
「折り畳み式バンブーテントの設営体験」

団体の情報

主な活動場所 特定の活動場所は持たない

雑木林研究会

TEL/FAX : (052) 262-3181 E-mail : k-mayumi@aurora.ocn.ne.jp

■例会の予定 : 幹事会 / 毎月第 1 月曜日 午後 7 時より

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

団体の目的・主な活動内容

滝ノ水緑地は、名古屋市緑区にあり、約 4.4ha の雑木林の中に、小さなため池と湿地があります。この地域が市街化される前の原風景を残す貴重な場所です。

私たちは、1997 年に滝ノ水緑地公園愛護会として活動を始めました。2010 年からは、滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会となり、緑のパートナーとして、名古屋市と協定を結びました。2011 年には、滝ノ水緑地維持管理計画を作成して、滝ノ水緑地の植生および生態系を維持・再生するための活動をしています。

平成 30 年度の活動について

<定例活動>

湿地：除草、笹刈り、シラタマホシクサの管理、ミズゴケの管理、常緑樹の除伐など
樹林地：除伐、しがらみ柵づくり、落葉かき、ビートルズベッドの管理、枯れ木の処理など
池：アメリカザリガニの捕獲、池に溜まる落葉の回収など

<イベント>

6月17日：環境デーなごや・身近な自然体験会「森で木を切ってマイバッジを作ろう！」
3月17日：滝ノ水緑地維持管理計画のフォローアップ「ツツジ満開の森づくり」
子どもたちに、除伐体験をしてもらい、森の自然のなかで活動する楽しさを感じてもらおうためのプログラムです。

<調査>

なごや生物多様性保全活動協議会の会員活動支援を受けて、滝ノ水緑地のトンボの調査をおこないました。

<その他>

2月17日：名古屋市みどりの協会の「なごや森づくり支援チーム」と、除伐、枯れ木の処理をおこないました。



▲池に溜まる落葉を回収するためにネットを張る

団体の情報

主な活動場所 滝ノ水緑地（緑区）

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

TEL：070-2639-6686 FAX：(052) 895-8628

E-mail：sumicco.g1601@gmail.com

■例会の予定：毎月第3日曜日 9：00～12：00（11月～3月は、10：00～12：00）（変更することがあります）

地球ハグ倶楽部

団体の目的・主な活動内容

【目的】

全ての生命をはぐくむ自然の中で、親子で遊ぶ。
「ハグ+コミュニケーション=ハグニケーション」という、ハグするようなあたたかなコミュニケーションを伝える。
自然体験を通して、まずは一番大切な自分自身、家族、お友達、自然とつながり元気になる。持続可能な社会のために、自分と家族とみんなと自然を大切にできる子供たちを育てる。身近なつながりから世界を良くしていくことを目的としています。

【活動の3本柱】

- ・自然の恵みをとって食べる“美味しい”体験
- ・自然の素材で作って遊ぶ“楽しい”体験
- ・自然の神秘を五感で感じる“美しい”体験

【育みたい3つの力】

■自分を信じる力 ■大切な人を愛する力 ■自分と地球をハグできる力

平成 30 年度の活動について

4月／糸魚川で光る石を探そう 摩訶不思議ホタルイカ（なごや生物多様性保全活動協議会活動）
6月／「島編」生物の発光の不思議を見てみよう！！ 探してみよう（子ども夢基金）
8月／潜入！なごや生物多様性センター IN バックヤードに！
9月／カンタ！ティモール上映会（映画上映会）
4月～3月／なごや環境大学 前・後期（なごや環境大学）

団体の情報

主な活動場所 愛知県中心

地球ハグ倶楽部

連絡はメールにてお願い致します。

E-mail：hugtheearth.club@gmail.com

ウェブサイト：https://chikyu-hug.club

■例会の予定：不定期（ホームページを参照）



中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

- 目的：クモ類の採集、観察、調査、研究など
- 創設：1969年
- 会員数：95名
- 会誌「蜘蛛」年1回発行
- 通信誌「まどい」年3回発行
- 総会・研究発表会・懇親会：毎年2月11日（建国記念日）
- 観察会（年4回以上）合宿（年1回）

平成30年度の活動について

（事業年度：4月～翌年3月）

- 主な活動
 - ・総会・研究発表会・懇親会（2/11 ウィルあいち）
 - ・観察会（5/27・6/16・9/16・10/7 全4回 愛知県内）
 - ・夏休み観察会（7/22 名古屋市八事山興正寺）
 - ・合宿（7/28・29 三重県鳥羽市答志島）
※三重クモ談話会と合同で実施
 - ・なごや生物多様性センターまつりブース展示（10/27）



▲夏休み観察会（7月22日名古屋市八事山興正寺）

▲木肌に扉付きの巣を作るキノボリタテグモ

団体の情報

主な活動場所 特定の活動場所を持たない

中部蜘蛛懇談会

E-mail：mail@ckumo.sakura.ne.jp

ウェブサイト：http://ckumo.sakura.ne.jp/ 《[中部蜘蛛懇談会] で検索》

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

○入会：子どもから研究者までどなたでも歓迎

○観察会の参加：会員以外でも参加自由・無料（開催日はウェブサイトに掲載）

中志段味の自然を次世代に伝える会

団体の目的・主な活動内容

才井戸流流域は将来『才井戸流湧水自然公園』（仮称）として、今の自然をそのまま生かしながら、生き物たちに触れられる公園になります。田んぼ跡の湧水ポイントから出る水と全域から染み出す水が、この流域の生き物たちを支えています。澄み切った川には「川モズク」が、河岸段丘の境目には「沢蟹」が生息しています。これらの自然環境保全とそこに生きる生物たちの繁殖を助けてやるよう、湧き出る水と吹き上がる砂・河岸段丘の境目から染み出る水を大切に生かし、保全を実証しながら次世代へ永続的に継承するのが私たち「伝える会」の活動です。

平成30年度の活動について

30年度は蟹原湿地と蛸神池で、ヘイケボタルが定着できる条件を整える試みに力を入れました。その一方でヒメボタルの保全条件を竹藪に整えるため、カビ臭い藪の土に光と風を入れ陸貝の繁殖する藪に変える事にも力を入れました。そのかいが有って、夏の時期にはヒメボタルの乱舞が今年も確認出来ています。トンボ達の数と種類も前年に比べて増えて、湧水が減った以前に戻つつあります。これらのボタル達・トンボ達の観察会・ザリガニ捕りを、今年から住民と子供たちに告示し定番行事にしてゆきます。

希少植物のコドラート調査・水路の湿った側面で繁茂している苔の調査・哺乳類調査などの基礎的活動をもとにして、大切な生き物たちの繁殖条件を整えた活動が30年度の活動になります。

団体の情報

主な活動場所 才井戸流全流域

中志段味の自然を次世代に伝える会

TEL：080-6968-2327（深田）

E-mail：f-jjin@yc5.so-net.ne.jp

■例会の予定：定例打合せ会／毎月第3土曜日 17：00～19：00（通年）

定例作業日／毎月第1土曜日 10：00～11：30（春）



なごや外来種を考える会

団体の目的・主な活動内容

2010年から名古屋市と周辺の地域で活動しています。「名古屋地域の健全な生態系を守る」ことが目的です。活動内容は「外来種の調査・駆除・啓発・情報発信」です。他との協働も積極的に行います。

平成30年度の活動について

5月～6月 協議会「オオキンケイギク対策部会の山崎川駆除活動」に携わりました。延べ29人でゴミ袋10袋分のオオキンケイギクを駆除しました。4年間続けていますが、当初から思うと半分以下に減っていると思います。

また6月～7月は協議会「水辺の生きもの部会」とコラボして、アメリカザリガニ連続捕獲装置による、アメリカザリガニの駆除実験を行いました。大物が多数捕れますがエサをこまめに入れ変える必要などを考えると、エサなしで「アナゴカゴ」を仕掛ける方が効率的でした。

また7月14日には、猪高緑地で「外来生物を捕る会」を、7月28日には「外来生物を食べる会」を名東生涯学習センターで開催し、アメリカザリガニの他、ウシガエル、ソテエやブラックバス、煮付けなどを19人の参加者に食べてもらいました。駆除すべき外来生物にも命があるのだから、大切に食べてあげることに参加者も意義を感じています。

10月～11月に外来種のムネアカハラビロカマキリの分布調査を行いました。天候の影響で多数は見られませんが、猪高緑地と森林公園内で確認できました。中国産で輸入された竹ぼうきに卵塊が付着して拡散しているようです。

1月は「トウネズミモチの駆除実験」を行いました。一般的に駆除しにくい外来樹木と言われていますが、切り倒した切口に食塩を盛るだけで枯れる「塩盛り法」や、細い枝やひこばえの切り口に、ガムテープで筒の様に巻き塩を詰める「テープ筒塩」などの駆除方法の検証中です。前者は駆除率85%ですが、後者はまだ改善の要ありです。



団体の情報

主な活動場所 その都度検討

なごや外来種を考える会

TEL: 090-8867-9725 FAX: (0561) 62-5510 E-mail: nonaka@kato-ken.co.jp

ウェブサイト: <http://nagorai.org/> 活動ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/nagorai>

■例会の予定: 不定期

「なごや環境大学」実行委員会

団体の目的・主な活動内容

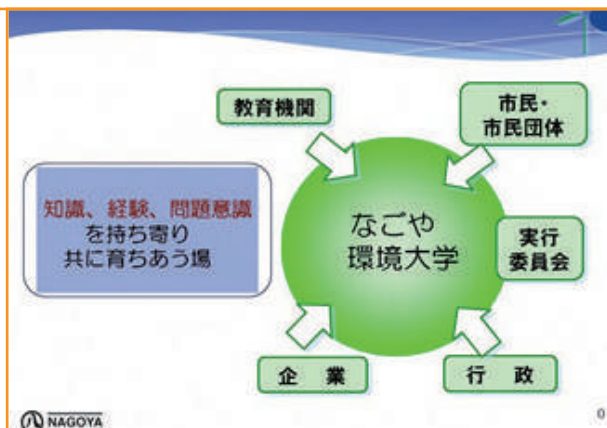
なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働でつくる、環境活動のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ(共育)」ことを目指しています。

平成30年度の活動について

中長期的な方向性を示す第4期ビジョンに基づき、ユース(若者)を対象とした事業の充実を図りました。具体的には、大学との連携授業を行ったほか、なごや環境大学に所属する学生自身が共育講座を企画しました。また、ごみ非常事態宣言20周年記念イベントを主催し、参加者が「なごやのみらい」について考え、行動につなげるきっかけづくりをしました。今後も、分野・主体・世代を超えた交流の場や、それぞれの主体が持つ知識や経験をつなぎ合わせる場などを創り出し、人づくり・人の輪づくりをすすめていきます。

<平成30年度の主な主催事業>

- ・自然栽培を知ろう!～おいしいやさいはどんな味?～(学生主催講座)
- ・環境デーなごや2018 WATSUMA MONO Village
- ・なごやのジレンマ!
「名古屋北エリアを例に考える持続可能なまち・人・仕事?いや生活!」
- ・豊かさを考えるSDGs映画会&トーク
- ・ごみ非常事態宣言20周年記念イベント
「なごやのみらいOpen Together」



▲ごみ非常事態宣言20周年記念イベントの様子

団体の情報

主な活動場所 まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」実行委員会

TEL/FAX: (052) 223-1223 E-mail: jimun@n-kd.jp

ウェブサイト: <https://www.n-kd.jp>

名古屋昆虫同好会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の半分以上を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて、様々な進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ることは、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知るなど、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない1949年に創立され、小学生から社会人、リタイア組など、地元名古屋を中心に、全国の約230名の虫好きの人が入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報（データ・生態等）が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年4回発行しています。

平成30年度の活動について

- ・「佳香蝶」「NAPI NEWS」を、年4回3ヶ月ごとに発行。
- ・1月第2日曜日 年次総会の開催
- ・1月と10月を除く毎月第二土曜日（原則）月例会実施
- ・10月第2日曜日 虫供養（千種区桃巖寺）実施
- ・4月ギフチョウ観察会 in 岐阜県中津川市
- ・7月採集会 in 中部地方の適地
- ・子供採集調査会 in なごや圏周辺

団体の情報

名古屋昆虫同好会（会長：間野隆裕）

TEL：090-9924-3518 FAX：(052) 442-1503 E-mail：manotaka@muj.biglobe.ne.jp

ウェブサイト：<http://nagoyakondo.jp/>

■例会の予定：毎月の例会と総会は名古屋市千種区吹上の中小企業振興会館（通称吹上ホールのある会館）4階で、情報交換や名前調べ会などの例会を実施しています。



▲シンポジウム



▲夏の採集会

名古屋産業大学 長谷川研究室

団体の目的・主な活動内容

身近にある自然環境の生物多様性を高めると共に、より生態系サービス（自然からの様々な恵み）が豊かな地域社会を作るための方法を探求しています。

大学のエコレク部（旧名：Eco サイクル部）とも連携して、Web 図鑑の作成、魅力的な散策ルートの開発、生物多様性に関するゲーム開発などを企画しています。

平成30年度の活動について

里山や都市緑地、都市公園を対象に、生物多様性、生態系サービスの実態把握とその可視化の方法を検討していきます。

- ・寺田地区の里山や湿地の生き物調査
- ・森林公園、東谷山などの生物や生態系についての基礎調査
- ・名古屋市内の公園緑地の植生やその保全活用状況についての調査
- ・生物や生態系サービス情報の可視化や活用方法の検討

団体の情報

主な活動場所 尾張旭市、名古屋市、瀬戸市

名古屋産業大学 長谷川研究室

TEL：0561-55-5101（大学代表）

FAX：0561-52-0515（大学代表）

E-mail：y-hasegawa@nagoya-su.ac.jp



名古屋自然観察会

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会(正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部)は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員((財)日本自然保護協会による認定資格者)によって1982年に結成されました。現在の会員数は約100名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。



▲ふるさと親子自然観察会(鳥田緑地公園)

平成30年度の活動について

- ① 市内11箇所の緑地や公園などでその自然の特色を生かした自然観察会やネイチャ・フィーリングなどの特色ある自然観察会を実施しました。
- ② 子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を3回実施しました。
- ③ 名古屋市の身近な自然にふれるために5月に“ふるさと親子自然観察会”を、また8月になごや生物多様性保全活動協議会主催の「サマースクール」を実施しました。
- ④ 名古屋市環境局の環境デーなごや実行委員会が主催する身近な自然体験会(6月)を実施し、環境デー中央行事(9月)にブース出展しました。
- ⑤ 名古屋市内の幼稚園や保育園、小学校などへ環境サポーターを派遣し、名古屋市環境局のエコキッズ事業を実施しました。
- ⑥ 会員のスキルアップを目的とした研修会を2回実施しました。
- ⑦ 愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
- ⑧ ホームページなどを通じて情報発信しました。

団体の情報

主な活動場所 市内の緑地や公園

名古屋自然観察会

TEL: (052) 782-2663 FAX: (052) 781-8127 E-mail: takilin@sf.starcat.ne.jp

ウェブサイト: <http://www.nagoyashizen.net/>

■例会の予定: 実施していません(役員会は偶数月の第3日曜日)。

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。1975年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を発見し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人・氏と交流のあった小学校教員と教え子や親御さん方等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。

ホタル発光の時期は、每晚ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等、正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話し会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったりしています。

歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分にできることで活動をしています。



▲12月15日 行政・企業との協働外堀清掃

平成30年度の活動について

- ホタル発光の時期、每晚23時頃～2時頃、ホタルの数を数え毎日HPにUP、人々へご案内をしました。発光時期は例年より全体的に一週間ほど早く、4月下旬に初見、ピークは5月20日、5月末にはほとんど見られなくなりました。総数は比較的多い方でした。「6月上旬は見られない」という広報が必要になってきました。今年度は、現地に出かけて見に来られた方一人一人にお声かけしましたが、しおりやHPでの広報の見直しをしました。現地での一人一人へのお声かけこそ、ここが温かい雰囲気で見守られている鍵だと感じました。「草や落ち葉の下には卵や幼虫がいますよ」「道路は信号を渡りますよ」と、皆さんも私たちが来年もホタルの光を見たい思いは同じだと意識して呼び掛けました。
- 北土木事務所の方とは、ホタル発光時期前を中心に現地の安全確認をして、危険な箇所はすぐに対応していただきました。中土木事務所の方とも、道路や橋等の工事の計画時から現地で説明を受けて、ホタル見学者やホタル生息地への配慮をしていただきました。
- 4月と12月に外堀の中に入って清掃をしました。行政・企業・市民の協働で行います。北土木事務所・中土木事務所の工事担当者・支援助けてくださる企業・そして乳幼児から学生を含む市民、という多様なメンバー30名で取り組めたことが大変貴重なことでした。情報の共有とともに心温まる交流ができました。

団体の情報

主な活動場所 名古屋城外堀(外堀通沿)

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

E-mail: kazuoy29@gmail.com (事務局長: 安田和代) ウェブサイト: <https://sotobori.amebaownd.com/>

■例会の予定: 不定期(ウェブサイトを確認下さい)

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属 生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

名古屋市立大学では、2009年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、全生物種について特定の遺伝子の塩基配列をカタログ化し、生きものの名前を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという取り組み（DNA バーコード計画）に携わり、東海地方の生物を手始めに、様々な生物の標本とDNA データを収集しています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学に来てください。

平成 30 年度の活動について

多くの方々のご協力のもとに、東海地方を中心に動植物の標本収集を行いました。これらの標本からミトコンドリア DNA の塩基配列決定を行い、系統解析を行いました。特に、名古屋市及びその近郊の淡水貝類や猛禽類について、個々の種を特徴づける DNA バーコードを取得するとともに、種内の遺伝的多様性を調べました。このほか市立高校の SSH 活動に協力したり、生物多様性の意義と DNA 解析についての研究室体験講座を行ったりしました。また環境デーなごや及びなごや生物多様性センターまつりに出展し、名古屋圏の生物多様性とその保全の重要性について市民への啓発活動を行いました。

団体の情報

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター

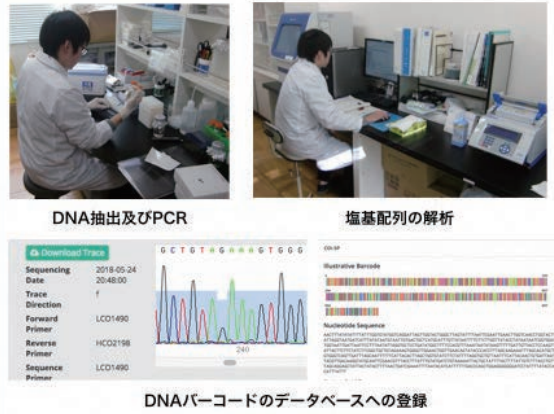
TEL：(052) 872-5851 FAX：(052) 872-5857 E-mail：biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp

ウェブサイト：http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/

- 様々な資料の収集と保存



- DNAバーコードの解析



なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

平成 30 年度の活動について

- 平成 30 年度の加盟団体数 森づくりを楽しむ 31 団体が加盟
 - ・定例会の開催：偶数月 第 2 金曜日 18:30 ~ 定例会の開催
奇数月 第 2 金曜日 18:30 ~ 幹事会の開催
 - ・フィールド訪問の開催
加盟団体の活動日に訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で、10 月は「水源の森と八竜湿地を守る会」、2 月は「滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会」の現地訪問が行われました。
 - ・テーマ協議
定例会では、「森パー連加盟団体と現地管理者の協力状況について」アンケートを実施し、12 月には、行政・管理者以外との地域とのつながり、2 月には管理者との協働について協議がされました。
 - ・なごや生物多様性センターまつり
10 月なごや生物多様性センターにてブース展示が行われました。
 - ・スキルアップ研修会の開催
2 月は「庄内緑地グリーンプラザ」2 階講習室にて、中西 正（愛知県環境審議会専門調査員）お招きし、「黒河湿地の植生管理」を学びました。
 - ・広報の充実
パネル作成に向けて、レイアウトを考案しました。



▲フィールド訪問 八竜湿地 ノシメトンボ



▲なごや生物多様センターまつり

団体の情報

主な活動場所 名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

TEL/FAX：(052) 262-3181 (事務局)

ウェブサイト：http://www.nga.or.jp/partnership/introduction.html

《[なごやの森づくりパートナーシップ連絡会] で検索》

■例会の予定：偶数月／第 2 金曜日 18：30 ~ 定例会の開催、奇数月／第 2 金曜日 18：30 ~ 幹事会の開催

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森を学び、森の保全と再生を目指して森づくりをしています。

いのち輝く森を次世代につなげようと活動をしています。

雑木林・湿地・竹林の手入れ、森の観察・案内、森の調査、ソバ班、畑班、田んぼ班など里山くらし体験活動も盛んです。



平成30年度の活動について

毎年の活動は、12の班活動があります。雑木林・湿地・竹林の保全活動と子ども森づくり活動も、田んぼ講座、畑講座も大盛況です。また、なごや生物多様性保全活動協議会の水辺の生きもの部会と、東山新池の移入種スイレンの除去活動と水草の希少種の保全、猫ヶ洞池のヨシ原再生・ゴミ拾いWSも、日本野鳥の会愛知県支部、なごや生物多様性保全活動協議会と協働で実施しました。湿地の調査と両生類の産卵地の保全も行っています。

活動日数 約300日/年、活動人数約5,000人

団体の情報

主な活動場所 なごや東山の森

NPO法人 なごや東山の森づくりの会

TEL/FAX：(052) 781-2595 E-mail：nh_morizukuri@higashiyama-mori.sakura.ne.jp

ウェブサイト：http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/

■例会の予定

【定例森づくり】活動参加費：会員/無料・一般/200円

活動日時：毎月第1日曜日 10:00～15:00

集合場所：毎回異なります

活動場所：奇数月/いのちの森・うるおいの森（東山公園南部）

偶数月/くらしの森（平和公園南部）

NPO法人 日進野菜塾

団体の目的・主な活動内容

都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命がつながっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信続ける場となることを希望しています。又、地域の子育てNPO、介護・障がい者団体等との農を生かした連携も進めています。栽培は、農薬や化成肥料を使いません。



▲近くの川で生きものさがし

平成30年度の活動について

①農業体験農園(指導付き農園)毎週土曜日(講義と実践)

②ダンボール生ゴミコンポスト講習会

③生きもの観察コース(子ども生きもの調査隊)

④ハウス食品「食と農と環境の体験教室」

⑤就労支援のための職場体験受け入れ

⑥マンション住民向け農体験講座

⑦朝市の事務局

⑧その他、田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、

イモ掘り、餅つきなど随時開催。



▲畑でいろいろな作物の姿を知る

団体の情報

主な活動場所 日進市本郷

NPO法人 日進野菜塾

TEL：090-5443-1518 FAX：(052) 934-7207 E-mail：info@n-yasaijuku.com

ウェブサイト：http://n-yasaijuku.com/

■例会の予定：日曜日9:00～12:00

日本カメ自然誌研究会

団体の目的・主な活動内容

本会は、カメの自然誌に関心のある研究者・ナチュラリスト・愛好家の交流・親睦・情報交換を目的とし、1998年に発足した研究会です。生息環境の破壊の影響で減少しつつある自然(野生)のカメと人が良い関係を保つためにはどうすればよいのかをみんなで考えています。交流のため年に一度「日本カメ会議」を開催しています。また在来のカメの保護や外来のカメの防除に関する、行政などの機関からの調査の要請も請け負っています。なごや生物多様性保全活動協議会が発行した「ミシシッピアカミミガメ防除マニュアル」は本研究会が監修しました。



▲名古屋大学鏡ヶ池のアリゲーターガーを捕獲

平成30年度の活動について

- ・ニホンイシガメが多数生息する名古屋大学の鏡ヶ池でアリゲーターガーの捕獲調査を実施しました。4月23日に全長132cm、体重14kgのオスのアリゲーターガー捕獲に成功しました。
- ・2月9日(土)～11日(祝)に「第20回日本カメ会議」を開催しました。初日9日は豊田市矢作川研究所シンポジウム「みんなで育む地域の自然 ～豊田市アカミミガメ防除プロジェクト報告会～」に参加しました。また、10日、11日には愛知学泉大学で日本各地からのカメ類の調査報告等がありました。

団体の情報

主な活動場所 その都度検討

日本カメ自然誌研究会

住所：〒471-8532 豊田市大池町汐取1 愛知学泉大学矢部研究室室内(事務局)

TEL/FAX：(0565) 35-8373 E-mail：kame@gakusen.ac.jp

ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/chelonian-1998/

■例会の予定：不定期(ウェブサイトを確認下さい)

日本野鳥の会愛知県支部

団体の目的・主な活動内容

日本野鳥の会は1934年(昭和9年)に創設され、全国に90の支部があります。愛知県支部は本部創設の4年後1938年に中京支部として誕生し、今年で81年を迎えます。活動の柱として野鳥を通して自然の大切さ、楽しさを知ってもらう普及活動、野鳥とその生息域を守るための保護活動、生態や生息数等を調べる調査活動があります。

そのうち普及活動の一つ、探鳥会是一般の方に野鳥観察の楽しさを知ってもらうため、会員以外の方も参加できます。また、参加の予約や費用も必要ありませんのでお気軽にご参加下さい。探鳥会の詳細はHP又は毎週中日新聞、朝日新聞に掲載しています。詳しくは事務所(末尾参照)へ問い合わせして下さい。

平成30年度の活動について

本年度に限らず次のような活動を継続して行っています。

1) 普及活動

探鳥会：年間140回以上 参加者はおよそ2600名
愛知県弥富野鳥園野鳥観察指導、バードウィーク写真展開催、小学校における環境学習の手伝い

2) 保護・調査研究活動

愛知県定点調査(県内22箇所、40年以上継続中)、カワウ調査8箇所、サギ調査(東名阪弥富・蟹江インターチェンジ)、コアジサシ調査 県内全域、木曾岬干拓地猛禽類調査



▲探鳥会の様子

団体の情報

主な活動場所 各地

日本野鳥の会愛知県支部

住所：〒462-0844 名古屋市北区清水五丁目10-8 グリーンフェロー3A(日本野鳥の会愛知県支部事務所)

TEL/FAX：(052) 912-9531 E-mail：front@wbsj-aichi.org ウェブサイト：http://wbsj-aichi.org

■例会の予定：不定期(ウェブサイトを確認下さい)

花水緑の会

団体の目的・主な活動内容

2002年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して、種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内19か所で、「花と緑」をキーワードにしたまちづくり・緑づくりのグループです。

平成30年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。

【定期活動】

- ・春の種まき(3月末から4月)マリーゴールドなど。ポット移植(5月)
- ・初夏の花苗植え込み(6月)街路樹植えマス・公園花壇など
- ・秋の種まき(9月)パンジー・ノースポールなど。ポット移植(10月)
- ・秋冬の花苗植え込み(11・12月)

【年間を通しての活動】

各部会担当街路樹植えマス・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。大高緑地の竹林・雑木林の保全・整備と竹炭づくり・ササユリ自生地の保全活動。

【イベントなどの参加】

あいち都市緑化フェア・みどりっ子体験フェスタ・身近な自然体験会・緑区クリーンキャンペーン・扇川緑道交流会・なごや生きもの一斉調査2018・緑区区民まつり・みどり多文化交流会・親子竹林整備体験・ビートルベットを作って遊ぼう・なごや生物多様性サマースクール2018



▲親子竹林管理体験



▲ビートルベットを作って遊ぼう

団体の情報

花水緑の会

TEL:(052)625-3878 FAX:(052)623-8191(緑区役所地域力推進室) E-mail:a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp

■例会の予定:不定期

主な活動場所 こもれび広場・大高緑地・扇川公園・通曲公園・扇川緑道・白土中央公園・坊主山公園・上ノ山公園・滝ノ水緑地公園・清水山・鳴子中央公園・なるば一く・水広下・梨の木公園・左京山・亀が洞

隼人池を美しくする会

団体の目的・主な活動内容

地域住民に愛される公園にしたいと、活動をスタート。公園や池の清掃や除草などの手入れ、池に流入する雨水や湧水の汚れの除去などを定期的に行っている。平成21年には名古屋ため池生物多様性保全協議会と協働で、市民とともに隼人池で池干しを行った。池干しでとれた外来の魚やカメ等を取り除いた。

平成30年度の活動について

地域の憩いの場として、隼人池の自然をみんなで守り育てたいと考え、日々取り組んでいる。

①定例活動

公園・池の清掃を定期的に行っている。

②その他活動

防災訓練他、年に数回あり。



▲隼人池の生きものを観察する子どもたち



▲防災訓練の炊き出し

団体の情報

隼人池を美しくする会

TEL:090-4468-0500(携帯)(代表:加藤 昌平)

主な活動場所 隼人池公園

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

平成 30 年度の活動について

- ・主催事業
「干潟の学校」
「ガタレンジャー養成講座」
「ガタレンジャー Jr.」
「藤前フォーラム」
環境省・名古屋市等との共催事業
- ・各種団体・学校等からの依頼による体感学習
- ・環境イベント等への出展
- ・環境省の委託による「稲永ビジターセンター」、「藤前活動センター」の運営等



団体の情報

主な活動場所 藤前干潟周辺

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会

TEL：080-5157-2002 E-mail：info@fujimae.org

ウェブサイト：http://www.fujimae.org

■例会の予定：理事会毎月1回（不定期）・総会年1回

三河淡水生物ネットワーク

団体の目的・主な活動内容

2008年2月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」、「次世代の研究者育成」を目的に、年4回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供や協力も行っています。

平成 30 年度の活動について

一部、協議会・水辺の生きもの部会の部会員として、また専門家として、名古屋市内の池干しや一斉調査を含む水生生物の調査等に関わっています。引き続き、愛知県内において、希少種・外来種の調査も行っています。

「なごや生きもの一斉調査2017～なごやで探そう！水の中の妖精～淡水貝編」

URL：http://www.bdnagoya.jp/calendar/pdf/isseichousa2017.pdf



▲とだがわ生態園の池干し

団体の情報

主な活動場所 愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク

E-mail：fw-life@katch.ne.jp

ウェブサイト：http://freshwaterlife.g3.xrea.com

名東自然観察会

団体の目的・主な活動内容

豊かな自然環境を後世まで残す為、自然環境を意識する人を増やす事を目的として、自然観察会を行いながら参加者の方も楽しんで体験して意識できる活動を行うことをモットーに活動を行っています。自然を大切にする人の参加大歓迎です。「春」「夏」「秋」「冬」自然との対話を楽しみましょう。

平成30年度の活動について

名古屋市名東区猪高緑地内においては昭和58年の会の設立以来、毎月第2土曜日9:30～定例自然観察会を開催してきました。H30年度現在までの参加者は観察会11回開催し(H31.2月現在)、3月分を仮定すると30年度は140～150名になる予定です。また猪高緑地内にオアシスの森事業として提案して復元された18面の棚田エリアにおいては、「なごや環境大学」の田んぼ講座活動を連続15年間に渡り、田んぼ体験講座を開催してきましたが、時代の流れ？で田んぼ周辺の環境や田んぼの保護保全の継続に対する意見の変化についていけなくなり、H28年度末をもって田んぼ14チームを解散とし耕作活動も撤退しました。猪高緑地内における第2土曜日の名東自然観察会活動は、以前のまま継続して開催しています。30年度から初心に戻り、里山環境の残された自然環境豊かな猪高緑地において、猪高緑地自然観察会の開催を続行させ、自然との出会いで年間テーマを一会一期として、参加者の方々と楽しみながら、生物多様性の保全・保護・地球温暖化による環境の変化などの観察調査活動を行っています。今後ともご支援・ご参加よろしくお祈いします。



▲自然観察会の様子

団体の情報

主な活動場所 名古屋市名東区猪高緑地内・他

名東自然観察会 代表 堀田 守

設立：昭和58年4月～初代代表は朱雀栄八郎氏・代表没後 H6年度～実績を引き継ぎ継続開催中

TEL/FAX：(052) 704-1196 E-mail：hori-tamori@nifty.com

ウェブサイト：<http://homepage3.nifty.com/horitamori/> 《工事中です [名東自然観察会] で検索》

■例会の予定：活動日／毎月第2土曜日9:30～午前中 名東生涯学習センター前集合

その他：長袖・長ズボン着用・あれば凶鑑・虫眼鏡・双眼鏡・汚れてもよい服装・履きなれた靴

名東自然倶楽部

団体の目的・主な活動内容

主に、猪高緑地の保全活動を行っています。その目的の為の活動を8つのグループがそれぞれの分野で行なっています。

- ①里山保全グループ…猪高緑地内の竹林管理、植物保護などの保全活動を行っています
 - ②田んぼグループ…復元した棚田で、一年を通した「コメ作り」を体験してもらいます。
 - ③炭焼きグループ…猪高緑地で増えすぎている竹を伐採し、竹炭を焼いて、有効利用しています。
 - ④自然観察グループ…自然の多様性など観察をとおして、緑地の案内をしています。
 - ⑤総合学習グループ…近隣の小中学校の総合学習の時間で環境学習に協力しています
 - ⑥竹クラフトグループ…猪高の竹で竹トンボ等の竹玩具や道具を作って有効利用しています。
 - ⑦調査グループ…緑地の保全の為に、生物、地形、水質の調査や保護活動を行っています。
 - ⑧畑グループ…2018年度にできた新しいグループです。
- グループ単独のみでなく、各グループが連携して、全体活動やイベントの運営を行っています。

平成30年度の活動について

活動の一覧はホームページを参照願います <http://sizen.ciao.jp/schedule/2018schedule0907.pdf>

○いたかの森の楽集講座 全10回 なごや環境大学の共育講座として開きました。

- 2018年度は設立20周年でした。記念行事として、①猪高緑地を出来るだけ多くの方に知って頂く ②名東自然倶楽部の活動を広く知って頂く ③名東自然倶楽部の活動の共鳴者を増やす ④一緒に活動する仲間を増やす ⑤倶楽部メンバーのスキルアップ ⑥新しい都市の緑地像を構築する を目的として企画・運営いたしました。



▲谷地田で田植え

団体の情報

主な活動場所 猪高緑地(名東区)

名東自然倶楽部

E-mail：k-takagi@zd6.so-net.ne.jp

ウェブサイト：<http://sizen.ciao.jp/>

■例会の予定：全体活動日 毎月第1土曜日9:00～12:00、各グループの活動日はホームページを参照願います。

もりづくり会議

団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討してするために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。

もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

平成 30 年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササ等の除伐、枯れ枝払い、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、アベマキ、アズキナシ、カマツカ等の苗木作りと植樹、生きもの観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら、一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査のアリ編（2018年）、淡水貝編（2017年）、カマキリ編（2015年）や陸貝編（2012年）などにも参加してきました。

2019年からは、城山八幡宮をはじめ、城山・覚王山地区に残る鎮守の森や斜面林の植生調査を行い、在来種や希少種の保全活動に力を入れています。また、定例の自然観察会や夏のクラフト活動などを企画しています。



団体の情報

主な活動場所 城山八幡宮

もりづくり会議

E-mail : morikaigi66@gmail.com

■例会の予定：月1回、定例会議と定例活動

守山リス研究会

団体の目的・主な活動内容

1990年から名古屋市東谷山を中心として生息する野生のリス・ムササビをはじめ哺乳動物とその生息地の調査・保全をする中で環境教育をすることを実施。また名古屋市や周辺地域の住民が地域の歴史、文化を含めた「ふるさとのお宝」として思い、守っていく活動を目指しています。

- (1) 生息する野生のリスをはじめとする哺乳動物とその生息地の調査・保全。
- (2) そういった活動の中で調査された情報を環境教育プログラムとして実施
- (3) さらに名古屋市や周辺地域の住民が「ふるさとのお宝」として思い、守っていくまちづくりを進めるための活動を実施。
- (4) 地質や自然の調査保全に獣害、外来種などの対策や神社・古墳の歴史、文化を含めて調査学習し、全てを記録に残して月報「リス研通信」として会員・関係者に報告しています。

平成 30 年度の活動について

- (1) 毎週5項目調査として①10台以上の自動撮影装置を1年中森に設置してその行動、生態を調査、②指定樹木20本の胸高直径計測、③指定林床（スズカカンアオイ、ササユリ、ムヨウラン、等）5カ所の日照・気温・湿度・風速計測、④給餌残数計測、⑤湧水計測を5年以上継続。調査時には動物のプラン調査・堅果木の実計測調査・テレメ調査で、巣位置・繁殖・棲み分け・行動を調査（ニホンリス、ムササビ、ニホンイタチ、ニホンキツネ、ニホンテン、ニホンカモシカ、アカネズミ、イノシシ、カインコなど）。
- (2) ①調査は毎週土曜日だが、なごや環境大学共済講座（14年以上継続）として月二回活動を公開しリス捕獲調査・知恵比べによる発見学習・課題解決学習を体験提供、②環境デーなごや（11年以上継続のフィールド活動）、③東海シニア大学講座（30人×2回13年以上継続）、④愛フェス出展、⑤ファーストキップ協働活動、⑥愛知サマーセミナー（13年以上継続の座学とフィールド活動）、⑦秋版オートムンフェス出展・リースワークショップ実施、⑧エコバルなごやでのリースワークショップ活動実施、⑨トワイライトスクールでの座学・リースワークショップ実施（3年継続）
- (3) 地域の獣害・外来種（イノシシ、アライグマ、ハクビシン、ヌートリア）の行動調査実施、山や森の浸食防止のための山道補修維持、植樹、など山や森が浸食されないような調査保全活動を実施
- (4) ①人間にも影響する SFTS ダニ感染症の継続事前調査、②イノシシ拡大によるヤマビル拡大可能性事前調査、③カインコ徘徊によるトキソプラズマサイクルの成立状況継続調査、④オオキンケイギク除伐継続10年、⑤ムネアカハラビロカマキリ駆除⑥タイワンタケクマバチ駆除など内外寄生虫や外来種の調査・駆除を継続実施、⑦ニホンミツバチの試験飼育開始しスズメバチとの相関データを収集開始。
- (5) 調査をする中で小中学生の観察力強化・環境教育として①市内小中学校の総合学習支援、②環境サポーターズとしてトワイライトスクール支援（3年継続）などや、③大学生ボランティアの長短期受入指導、④2015年より継続している卒論テーマ調査のための名城大の学生さん年間支援とインターン受入活動実施、⑤岐阜大学との協働で教員免許更新のための先生向け講座、⑥名古屋国際学園への英語による座学・フィールド活動や⑦クラーク国際学園高校との協働活動開始のための打合せ実施中。
- (6) 以上のような調査保全活動と環境教育の一体化活動で2018年あいち環境賞受賞。



団体の情報

主な活動場所 東谷山・森林公園ゴルフ場・森林公園・岐阜金華山・軽井沢・孺恋

守山リス研究会

TEL/FAX : (052) 795-2616 E-mail : risuken@kzc.biglobe.ne.jp

ウェブサイト : <http://risuken.sakura.ne.jp/>

■例会の予定：定期調査／毎週土曜日 9:30～13:30

なごや環境大学共済講座 + リス捕獲調査／第3土曜日 9:30～14:00（第4土曜日は知恵比講座）

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成(会則は翌年5月制定)されました。当時の日本は高度成長期の真っただ中にあり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。

平成30年度の活動について

- ・「矢田川で魚を捕ろう」イベント(5月)
- ・矢田川魚道の生き物調査(6月・9月)
- ・第8回庄内川水系天然アユ釣り大会(9月)
- ・バーブ工学会(10月)
- ・第44回庄内川まつり魚釣り大会(11月)
- その他
- ・NPO土岐川・庄内川サポートセンターとの協働活動
- ・土岐川・庄内川流域ネットワークとの協働活動



▲第44回庄内川まつり魚釣り大会

団体の情報

主な活動場所 庄内川水系一庄内川・矢田川

矢田・庄内川をきれいにする会

TEL: (052) 794-3876 FAX: (052) 796-2344 E-mail: yadashounai@gmail.com

ウェブサイト: <http://www.yadashounai.org/>

■例会の予定: 4月総会、以降不定期に役員会開催

野生動物生態研究会

団体の目的・主な活動内容

名城大学農学部生物環境科学科・環境動物学研究室の附属サークルです。水生生物部門、鳥部門、哺乳類部門の三つに大きく分かれており、なごや生物多様性保全活動協議会をはじめとする各環境保全団体と協力しながら活動しています。

平成30年度の活動について

なごや生物多様性センターまつりへの参加。

水生生物部門: カワバタモロコの繁殖や水路、ため池の生物調査。戸田川緑地、道徳公園の池干しへの参加。

鳥部門: 巣箱を用いた森林性鳥類の長期的な研究。探鳥地への遠征。野鳥の会のサギ調査への参加。

哺乳類部門: 守山リス研究会の定期調査への参加。なごや生物多様性センターでのアライグマの解剖。



団体の情報

主な活動場所 名古屋市周辺

野生動物生態研究会

公式Twitterアカウント: @yamonken_abms

■例会の予定: 定例会/名城大学 E403 で毎週水曜日 12:30 ~ 12:50

山崎川グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

都市河川である山崎川は、まわりの都市化と開発のため、戦後 70 年の間に大きく環境が変わりました。そして、現在は人が放流した外来種のために、本来の生態系が崩れつつありました。山崎川グリーンマップは 2008 年より、ミシシippアカミミガメやカダヤシなどの外来種の防除を続けています。カメに関しては、現在までに 300 匹以上のミシシippアカミミガメの成体を取り除きました。

2018 年、日本中を猛暑が襲いました。山崎川もその影響で、川はアオコだらけ。熱中症が心配で、夏休みの生き物観察がまともに出来ないほどの状態が続きました。今後、暑さのために山崎川に限らず、名古屋市内の生き物は大きく様変わりするのでしょうか。今いる生き物をしっかりと記録し、今後の変化を見ていきたいと思います。

平成 30 年度の活動について

- ① 瑞穂区内小学校の 4 年生総合学習
6 月 4 日 (月)・・汐路小学校、10 月 1 日 (月)・・陽明小学校
- ② 7 月 29 日 (日) 10:00～12:00 瑞穂運動場ラグビー場会議室で、生き物勉強会。台風のため、観察会を室内勉強会に変更。
講師:アウトドアタレントの鉄崎幹人さん、カメの矢部隆先生
- ③ 11 月 5 日 (月) 瑞穂生涯学習センター公開講座「山崎川の生き物 今と昔」
- ④ 5 月 22 日 (火) 萩山中学校科学部と投網を使った生物調査
講師:間野静雄さん (矢田川庄内川を守る会)
- ⑤ 10 月 16 日 (火) 地曳網を使った大型コイの防除。名城大学理工学部環境創造学科谷口研究室の協力で、11 匹 60.3kg を取り除いた。
- ⑥ その他の生物調査・・4 月 22 日・6 月 24 日・7 月 28 日・9 月 28 日・11 月 2 日



▲6 月 4 日瑞穂区汐路小学校での総合学習



▲山下橋下流でのコイの防除

団体の情報

主な活動場所 山崎川 瑞穂区内

山崎川グリーンマップ

TEL/FAX : (052) 841-6048 E-mail : a-ohya@sc.starcat.ne.jp

ウェブサイト : <http://www1.m1.mediakat.ne.jp/a-ohya/>

■例会の予定 : 不定期 (ウェブサイトを確認下さい)



「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や協議会会員団体が行う生物調査や講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。

平成 30 年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月 平成 31 年 4 月

発行 なごや生物多様性保全活動協議会

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066

愛知県名古屋市天白区元八事五丁目 230 番地

電話 052-700-7792 FAX 052-839-1695

ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>